

## 平成27年度社会福祉法人福浜会事業報告

平成 27 年度、国で障害者総合支援法施行 3 年後の見直しが行われた。新たな障害福祉サービス事業として、共同生活援助の利用者に対する定期的な巡回訪問や随時の対応等の相談・助言等を行う「自立生活援助事業」、就業に伴う生活面の課題に対し事業所・家族との連絡調整等を行う「就労定着支援事業」、医療機関への入院時の重度訪問介護による支援、重度な障害によって外出等の困難な障害児の居宅訪問による発達支援サービス、障害児福祉計画の策定、重心ではない医療的ケアを要する児童への適切な支援などが主な点として挙げられる。

但し、今回の法改正の実施は次期報酬改定の平成 30 年度に併せて施行される。また基本的な現行のサービス体系の枠組みは継続される。その他の検討を要する項目は、平成 30 年度の報酬改定に合わせて施行。例えば、現在グループホームを利用している「障害支援区分なし・1・2」の方や重度障害者の方の支援は、新たに開始されるであろう「地域生活支援拠点事業」と絡めながら議論されることとなる。また高齢の障害者に対する支援では、「障害福祉事業者が介護保険の事業指定を取りやすくする」方向性が示されたことで、複合的な事業展開を目指している実態が明らかになった。厚生労働省では、これに児童福祉も加えた 3 事業の複合的な事業展開も検討されている。

また社会福祉法人制度改革が実施されることによって、社会福祉法人は、新しい理事会、評議員会の検討を平成 28 年度より準備していかなければならない。さらに、求められている地域における公益的な活動の取組み等も具体的に進めていくこととなった。例えば、制度以外の生活支援サービス・在宅支援事業（通院・外出・見守り・買い物・家事・入浴・配食支援など）、低所得者に対する生活支援（相談、生活資金の助成、住宅の提供、奨学金の助成など）、施設退所者に対する継続的な支援などが挙げられている。

制度的な課題の一方で、法人内部の課題として人材不足が挙げられる。高齢者が増え、少子化で支える人口は減少する。この人材不足にさらに追い打ちをかけるような状況である。人材確保や職場定着を図り、適正な職員配置のもとで障害のある人たちを継続的に支援できるよう、魅力のある職場にしていくことも大きな課題である。

今年度の各施設の状況を振り返ると、先ず一番に挙げられるのは、松ぼっくり従たる事業所の施設整備に国の認可が下りたことであろう。来年度早々から、平成29年度開所を目指した施設整備に向けた動きが始まる。行動障害のある自閉的な方などを対象に、卒業後の進路先として機能できるようハード面だけでなく人材等のソフトの面からも準備を進めていかなければならない。

また、重症心身障害のある人たちの環境整備についても、この 3 月には施設建設の候補地である自治会での説明会も終え、少しずつ動き出している。地元の住民の方々には、障害のある人の活動へのご理解とご協力を得て、できるだけ早い時期に認可され、より良い環境の下で安心して過ごせるよう、ご家族当事者や関係機関と連携をしながら進めていきたい。

さらに今年度は、磐田市と指定福祉避難所として協定を結んだ。実際に大規模な災害が発生した場合にどのような行動がとれるのか、発災時のいる場所によって対応は異なり、また障害故の避難上のハードルはどこまであるのか、さまざまなシミュレーションをする中で、避難の方法や物資の備蓄、支援を要する人たちの受け入れとそれに伴う設備等の準備など、現実的にやるべき課題がまだまだあると痛感している。

## 平成 27 年度理事会

開催日	出席者数／ 理事総数	議 題
5/23	7 / 7	1 社会福祉法人福浜会評議員の選任につき同意を求めることについて
5/23	7 / 7	1 平成26年度共同生活援助事業汐風の実地指導の実施結果報告及び是正・改善計画について 2 平成26年度社会福祉法人福浜会事業報告及び会計決算の承認（監査報告） 3 共同生活援助事業の夜勤体制実施に伴う共同生活援助世話人就業規則及び常勤・有期契約職員就業規則等の改定について 4 監事監査実施規程の制定について 5 重症心身障害児(者)を主たる対象とする施設整備に係る計画について 6 物品購入・工事の実施等の諸手続きに係る契約等の規程について その他 法人設立20周年記念式典、社会福祉法人在り方検討会報告
10/31	7 / 7	1 松ぼっくり従たる事業所施設整備の状況について 2 平成27年度そとぼと、はまぼう及びあにまあとの実地指導の実施結果報告及び是正・改善計画について 3 各施設運営規程の変更について 4 社会福祉法人福浜会給与規程（住居手当及び通勤手当並びに初任給基準表）の改定について 5 平成27年度本部会計及び施設・事業会計の第1次補正予算案について 6 重症心身障害児(者)を主たる対象とする施設整備に係る計画について その他 法人設立20周年記念式典報告
3/16	7 / 7	1 松ぼっくり従たる事業所施設整備の状況について 2 平成 27 年度本部会計及び施設・事業会計の補正予算案について 3 平成 28 年度法人及び各事業所事業計画について 4 平成28年度法人会計及び施設・事業会計当初予算案について 5 共同生活援助運営規程の変更について 6 社会福祉法人福浜会給与規程（非常勤職員給与基準）及び運営施行細則の改定について 7 重症心身障害児(者)を主たる対象とする施設整備に係る計画について その他 平成28年度以降の社会福祉法人制度改革について

## 平成27年度評議員会

開催日	出席者数／ 評議員総数	議 題
5/23	13 / 15	1 平成26年度共同生活援助事業汐風の実地指導の実施結果報告及び是正・改善計画について 2 平成26年度社会福祉法人福浜会事業報告及び会計決算の承認（監査報告） 3 共同生活援助事業の夜勤体制実施に伴う共同生活援助世話人就業規則及び常勤・有期契約職員就業規則等の改定について 4 監事監査実施規程の制定について 5 重症心身障害児(者)を主たる対象とする施設整備に係る計画について 6 物品購入・工事の実施等の諸手続きに係る契約等の規程について その他 法人設立20周年記念式典、社会福祉法人在り方検討会報告
10/31	13 / 15	1 松ぼっくり従たる事業所施設整備の状況について 2 平成27年度そるとぼっと、はまぼう及びあにまあの実地指導の実施結果報告及び是正・改善計画について 3 各施設運営規程の変更について 4 社会福祉法人福浜会給与規程（住居手当及び通勤手当並びに初任給基準表）の改定について 5 平成27年度本部会計及び施設・事業会計の第1次補正予算案について 6 重症心身障害児(者)を主たる対象とする施設整備に係る計画について その他 法人設立20周年記念式典報告
3/16	13 / 15	1 松ぼっくり従たる事業所施設整備の状況について 2 平成27年度本部会計及び施設・事業会計の補正予算案について 3 平成28年度法人及び各事業所事業計画について 4 平成28年度法人会計及び施設・事業会計当初予算案について 5 共同生活援助運営規程の変更について 6 社会福祉法人福浜会給与規程（非常勤職員給与基準）及び運営施行細則の改定について 7 重症心身障害児(者)を主たる対象とする施設整備に係る計画について その他 平成28年度以降の社会福祉法人制度改革について

## 平成27年度はまぼう・あにまあと活動報告

### 1. 在籍者の状況

はまぼう 平成27年度の定員30名及び定員緩和措置を含めた月別の在籍状況

区分		月												合計
		27年 4	5	6	7	8	9	10	11	12	28年 1	2	3	
入所		1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2
退所		1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
月末 在籍	男	29	28	28	29	29	29	29	29	29	29	29	29	
	女	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	
	計	41	40	40	41	41	41	41	41	41	41	41	41	

### あにまあと 契約者数

区分		月												合計
		27年 4	5	6	7	8	9	10	11	12	28年 1	2	3	
生活介護		5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	22
児童発達		0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	
放課後等		16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	

### 日中一時支援事業デイサービス対象者

区分		月												合計
		27年 4	5	6	7	8	9	10	11	12	28年 1	2	3	
入所		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
退所		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
月末 在籍	男	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
	女	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
	計	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	

### 2. その他の利用状況

区分		月												合計
		27年 4	5	6	7	8	9	10	11	12	28年 1	2	3	
養実 護習 等生	人員	0	0	4	0	1	0	3	1	1	0	0	0	10
	利用日数	0	0	18	0	2	0	15	3	1	0	0	0	39
実研 習修 ・生	人員	0	2	2	2	4	3	3	5	2	2	2	3	30
	利用日数	0	8	6	2	14	10	18	20	4	8	2	13	105
見学 者	件数	2	1	1	2	1	1	0	0	1	1	3	1	14
	人員	5	3	1	5	18	15	0	0	1	1	3	1	53
ポテ ライ ンア	延人数	44	27	39	34	22	33	39	26	24	14	16	11	329
	特記													

### 3. 活動の状況

#### 活動全般について

はまぼう・あにまあとでは、朝のミーティングでその日の活動を自分で選ぶように声を掛けている。ほとんどの方が選ぶ内容が定着しているが、時期や仲間との関係から、その日や時期によって活動グループを変える利用者さんもいた。作業の活動内容は、昨年まであったパン・菓子作りを中心に行ってきたグループがなくなったが、それ以外はほぼ固定している。4月と7月にはそれぞれ1名ずつ新しい利用者さんが加わった。一方で、4月と5月に2名の方がご病気のため亡くなられた。新しい方については、できるだけご本人やご家族の意向に沿えるよう声を掛けながら、参加グループを決定した。楽しくまた意欲的に、作業やレクリエーション活動に参加できるように、仲間作りも意識しながら実施してきた。

重心多機能事業あにまあとでは、身体機能保持のためのふれあい体操、二人のリフレクソロジーによるリフレクソロジーのほか、11月より理学療法士も加わり、リハビリ訓練等を実施した。感覚刺激であるスヌーズレンは、昨年度時間的な問題や職員配置の関係等から、その目的を果たせなかったかった反省から、できる限り取り入れる努力をした。また放課後等デイサービス事業では、1日に通所する人数も増えたことは嬉しいことであり、一人ひとりに対して、より充実した対応を心掛けた。発達に重点を置いた障害児療育の在り方という点では、28年度は、専門家の協力を得ながら進めていきたいと考えている。一人ひとりに適した活動・療育として、より充実したものにしていきたい。

今年度も、利用者さんの希望を聞きながら、それぞれの担当職員の采配で、土曜日にレクリエーション活動を実施した。ご家族の参加もあるなど、工夫をしながら楽しい時間を過ごせた。スカイハウスの日陰を利用し、夏場の暑い時期に日陰で流しそうめんを楽しんだり、水遊び、スイカ割りをするなどの季節に合った活動、工作や書初めなどの文化的な活動も実施することができた。

施設でのグループ活動や個別体験なども、利用者さんの意見や希望に沿って取組み、特に個別体験は、個別面談時にご本人・家族と相談し、その希望を個別支援計画に記載し実施するようにした。また本人会であるはまちゃん会も、クリスマス会や豆まきなどの行事を主体的に企画立案した。

健康面では、医療的なケアが必要な重心の方だけでなく、年齢が経るに従い、今までとは異なる体調の変化が表れてきた利用者さんがいる。てんかん発作だけでなく内臓疾患等で入院される方もいた。健康面での配慮がこれまで以上に必要になってきている。家庭との緊密な連絡はもちろんであるが、利用者さんの主治医や法人の協力医等との情報交換の重要性が増している。

### 4. グループ活動報告

#### らでいっしゅ

グループの主な作業活動は、受注作業・縫製等の自主製品・アルミ缶リサイクル・園芸・外部作業を中心にぼぷりん工房・ふぁーれ・オズグループと3つのグループに別れ行った。外部作業以外はグループのメンバーにとらわれず、利用者さんのやりたい作業を選択し、行っていった。

#### (1)ぼぷりん工房

##### ①受注作業

ブリヂストンのキャップ分離作業を行う。作業を2工程に分け、それぞれが出来る工程を担当した。必要な利用者さんに対しては補助具を使用するなどして、利用者さんが自分で出来ることで自信にも繋がっていった。LD塗装下キャップ清掃作業（ブリヂストン）は、部品が小さく細かい作業であるが、個々の利用者さんに合わせて補助具を使用したり、工程を分けるなどして、少しずつ無理のない範囲で進めていった。

## ②さをり織り

さをり織りは個性を大切にしている為、利用者さんが縦糸・横糸の選択、織り方まで本人に任せることでオリジナルの作品を作ることが出来た。織りあがった布は縫製作業によって製品化し、同じものがひとつと無いオリジナルのさをり織りは好評を得ている。

## ③縫製

さをり織りで織りあがった布の個性を生かせるように考え、携帯入れや巾着・ふくろう根付などの製品に仕上げた。トートバック・ポーチなどの製品については、ボランティアさんの協力も頂いた。

また、作る物や生地・ボタンの色を利用者さん自身に選んでもらうことで、自分で仕上げた達成感を味わうことや、製作意欲の向上にもつながった。

## ④クリスマスツリー

スプレーで色塗りをする担当・飾り付けの担当と利用者さんが別れ、それぞれ個性のあるツリーを楽しみながら仕上げることができた。

## ⑤印刷

パソコンが得意な利用者さんが年賀状作りを行った。数年間継続してやっていることで、短期間で仕上げる事が出来ている。利用者さん自身が考えながら自信をもって実施することが出来た。

## (2)オズグループ

### ①アルミ缶リサイクル

毎週月曜日に福田地区内を缶回収に廻り、缶つぶしを行った。その他、利用者さんの家や協力して頂いている方の家にも、定期的に缶回収に行った。毎週火曜日や缶が溜まった時に缶運搬を実施。納品の際には、より買い取り金額の高い業者へ缶の運搬を行った。利用者さんの活動としてはプルタブ取り、缶つぶしに作業工程を分けた。缶つぶしは、段階的に工程を分け、利用者さん一人一人に合った工程を担当し、多くの利用者さん同士で協力し合いながら、缶つぶしを行うことが出来た。

### ②リサイクル活動

月に一回、施設に溜まったダンボールやペットボトル、雑誌等をクリーンセンターに運び、リサイクル活動を行った。準備段階から、利用者さんと一緒に行き、職員と利用者さんが一体となり、この活動を行うことが出来た。

毎月申請に行き、市からの助成金(古紙等資源集団回収事業奨励金)を受けた。

### ④園芸・畑

11月～3月の間、県庁玄関等に飾る30鉢のプランター作りをメインとして実施。グリーンバンクで頂いた種を育て苗作りを行った。県庁への納品・回収も利用者さんで行い通常とは違う活動で楽しむことが出来た。

野菜作りはボランティアさん主体で、さつま芋・玉葱を作り、利用者さんと収穫。採れた野菜は販売したり、みんなで焼き芋をして楽しんだ。

## (3)ふぁーれ

シートカバー袋詰め等の請負作業を行う。工程も何通りかあるため、出来る工程をそれぞれが意欲的に取り組む様子がみられ、この1年で作業量も大幅に増えた。

#### (4)外部作業

##### ①コーケン工業

磐田市竜洋にある工場に通い、部品の組み立て作業（金具にゴムをはめる作業）を行っている。仕事にも慣れ、作業内容もほぼ固定されているので、仕事のスピードも上がり、分量も増えてきている。新しい部品も増え、難しい工程もあるが、一人一人が責任を持ちながら作業に取り組むことができている。

##### ②於保老健施設・さくらの苑

（於保老健施設）：毎週火曜日に利用者さん5名でベットメイキングを行った。それぞれが協力し合いながら、仕事に取り組んでおり、スムーズにシーツ交換が出来た。

（さくらの苑）：毎週水曜日にベットメイキングを行った。新しく入った利用者さんも、仕事に慣れ、スムーズにシーツ交換出来るようになった。困る事や分からないことには、しっかりと聞きに行くことが出来ていた。

#### (5)販売（ぼぷりん工房・オズグループ）

出来上がった製品・野菜等は、地域のバザー、アプレゲール、お茶の山大園で販売した。地域との関わりを深めるためにも作品展覧会などに積極的に出展することで、意欲的に製品作りができた。地域のバザーでは、さをり織りの携帯・スマートフォン入れは好評で、ぼぷりん工房の看板製品となっていた。野菜等も地域のバザー等で好評であった。

#### その他の活動について

##### (1) グループ活動

＜朝・帰りのミーティング＞（ぼぷりん工房・オズグループ）

- ・ 進行は曜日ごとに当番を決め、利用者さんが主体となり、やる気をもって行えた。
- ・ ミーティング後にラジオ体操を実施し、体を軽く動かすことで作業活動にスムーズに移ることが出来た。

＜グループ活動＞

- ・ 6月にオズグループは、森町でバーベキューを行い、ぼぷりん工房とふぁーれは合同で遠州灘海浜公園と浜松まつり会館へ行った。バーベキューやお弁当を食べながらのんびりと過ごすことができ、楽しむことが出来た。2月～3月には、オズグループとぼぷりん工房は中国料理と浜岡砂丘の河津桜を満喫した。ぼぷりん工房は2グループに分かれて実施し、少人数で落ち着いて過ごすことが出来た。ふぁーれは施設内で料理作りやお楽しみ会を実施し、ゆったりと過ごすことが出来き、いつもと違う活動に満足できた様子だった。
- ・ 宿泊体験は4グループに分かれ、それぞれの希望にあわせ、活動することが出来た。

＜体育館（オズグループ）＞

体育館を借り、ボール遊びや縄跳び、バトミントン等、身体を動かす活動を月に2回程行った。普段の活動とは違った利用者さんの表情や動きを見ることが出来た。

他のグループにも参加を呼びかけ、グループの垣根を越えて楽しむことが出来た。

##### (2) スポーツ等の個別活動

高齢になってきた利用者さんもいるため、スポーツ体験に限らず料理作りなどの生活体験を含めた活動を少人数で個々の希望に合わせ、相談しながら実施した。それぞれの利用者さんが体を動かしたり、日頃出来ない生活体験をする事が出来た。（希望者のみ実施 実施状況 表1）

### (3) 個別体験

事前にアンケートをとり、個別面談時にご本人やご家族の希望を聞きながら、体験したいことや外出先を決めて実施した。それぞれに楽しめた内容となった。（希望者のみ実施・実費徴収実施状況 表2）

表1. 個別活動

実施日	内 容 (行き先)	参加利用者人数	職員人数
7月28日(火)	寄せ植え体験	2名	1名
8月31日(月)	プール (竜洋B&G)	3名	2名、実習生
10月16日(金)	温水プール	1名	1名
10月29日(木)	マレットゴルフ (御前崎市)	2名	2名
12月 9日(水)	ボーリング (袋井グランドボウル)	4名	2名
1月22日(金)	料理作り (ハヤシライス・サラダ・パンケーキ)	3名	1名
2月18日(木)	お菓子作り (ロールケーキにデコレーション)	3名	2名
2月19日(金)	ボーリング (袋井グランドボウル)	4名	3名、ボラ
3月10日(木)	ウォーキング (兎山公園)	2名	2名
3月22日(火)	散歩 (エコパ)	2名	1名、ボラ

表2. 個別体験

実施日	内 容 (行き先)	参加利用者人数	職員人数
9月18日(金)	ぶどう狩り・食事 (浜松市北区)	3名	2名
10月15日(木)	東山動物園	3名	2名
10月23日(金)	ウォーキング (かわせみ湖)	2名	2名
11月13日(金)	ランチバイキング・温泉 (ウェルシーズン浜名湖)	3名	1名 ボラ2名
11月17日(火)	パンケーキを食べに行こう！ ウォット (浜松市街・浜松市西区)	3名	2名
12月11日(金)	三保水族館	4名	2名、ボラ
12月19日(土)	ぼんぽこミステリーツアー (伊豆シャボテン公園)	4名	1名、ボラ
3月15日(火)	浜名湖ガーデンパーク	3名	1名、ボラ

### カラーズ

利用者数 10名 (生活介護利用者9名、日中一時1名)  
<車椅子9名 うち全面介助者7名>

	口腔吸引	鼻腔吸引	気管切開	吸引 (気切部)	経鼻 経管栄養	経管栄養 (胃瘻)	呼吸器 管理	酸素管理
A	1	1				1		
B	1		1			1	1	
C			1	1	1			1
D	1					1		
合計	3	1	2	1	1	3	1	1

## [1]活動のまとめ

感覚・色彩等を感じる事の出来る作業を多く取り入れながら、体調に留意しつつ無理のない範囲でグループの皆が協力し合える活動を行った。

## [2]主な作業内容 ～ 紙工芸・粘土細工（小麦粉粘土）・クッキー作り

### ①紙工芸

色彩を感じる事の出来る作業を行うために折り染めを取り入れ、それをノート・鉛筆の製品にし、紙すきで作った葉とセットで販売。その他、利用者さんの連絡帳・B5版ノートやメモ帳を販売した。

折り染めは個々の自由な感性で染めるため個性的な製品が出来上がった。ノート・鉛筆の糊付け作業は、利用者さんが一人で言うのは難しく、大半の人が介助や確認を必要としていた。

紙工芸製品はバザー等で幅広い年齢層の方に購入してもらう事が出来た。

### ②粘土細工

マグネット製品を中心に製作した。動物や野菜・花・食べ物など身近な物の形をマグネットに貼り付け販売しており子供さんに好評である。小さな細工を利用者さんが作ることは難しいが、職員と一緒に、指先や手のひらで平らにしたり丸めたりし、作る楽しさを味わえた。

### ③クッキー作り

利用者さんを中心にそれぞれ自分の出来る工程を担当し、バザー等での販売を中心に行った。利用者さんの活動ペースに合わせることが難しく忙しい時期もあったが、利用者さんにとっては無理なく活動することができた。

#### a. 生地作り工程

バター・砂糖の攪拌、鶏卵の攪拌、生地を練る作業を行う。バター・砂糖の攪拌と生地を練る作業は、材料をビニール袋に入れることで、その感触を楽しみながら作業することが出来た。

#### b. 型抜き・成型・焼く工程

成型は生地をラップに包みテーブルの上や手のひらで平らにするが、程よい厚みで出来るようになった。型抜きを自分の仕事として前向きに取り組む利用者さんの姿もみられたが、厚みにばらつきもあり注意を促しながら進めた。

#### c. 袋準備・袋詰め工程

シール貼り、クッキー・乾燥剤の袋詰め、袋綴じを流れ作業で行った。袋詰めは補助具を、袋綴じはシーラーを使用して、職員と一緒にやった。袋綴じは職員の声掛けで確実に行うことが出来た。

透明な袋に飾りリボンは見た目にも良く好評であった。飾りリボンを作る作業が出来る利用者さんがいて、仕事の幅が広がり喜びとなった様である。

## [3]その他の活動

### ①朝・帰りのミーティング

毎日、利用者さんが交代で司会をして進行。出欠席の確認やその日の活動内容の確認をし、その日の反省・感想等を話してもらう様にした。一日の活動を自分の意思で選択できる利用者さんが増えた。

### ②散歩・外気浴

出来るだけ外の空気に触れられるよう、体調に注意しながらはまぼう周辺の散歩・玄関前での外気浴を行った。散歩は全員が一緒に出掛けることは難しく、短時間の交代でおこなった。また長い時間外気にあたると疲れてしまう利用者さんも居たため、散歩を短い距離で済ませ室内で待っている事もあった。又、歩ける利用者さんが車椅子を押すなど、他グループの利用者さんとの関わりもあり仲間意識の向上が見られた。

### ③足浴

冬季は車椅子利用者さんを中心に、足浴（場合によっては手浴）を多目に行い、体を温めると共に全身の緊張を和らげる様にした。他グループからの希望者もあり、リラックスした時間を過ごすことが出来た。

### ④レクリエーション

利用者さんから自分のやりたいものを聞き、職員が出した複数の選択肢の中から利用者さんが選んで行った。普段体を動かす機会が少ない人たちが多いため、ペットボトルボウリングやトランプ・百人一首（坊主めくり）・すごろくゲームなど室内でも楽しめることを行った。音声を楽しむCD紙芝居も内容を毎回利用者さんに選んでもらい、リラックスした時間を過ごしながら楽しむことが出来た。

### ⑤外出・外食・納涼会

ボランティアさんの協力を得ながら行なった。

納涼会はグループの恒例行事となっている。夕食のカレー作りや花火など夜までの活動であるが、事故もなく皆楽しそうに参加出来ていた。納涼会の延長を利用し、2名の宿泊を実施した（はまぼうにて）。

実施日	内容（行き先）	参加利用者	職員
5月22日（金）	グループ外出 iプラザ（磐田市）	11名	9名
8月11日（火） 12日（水）	納涼会・宿泊	3名	2名
3月11日（金）	食事会	11名	9名

### ⑥個別外出

実施日	内容（行き先）	参加利用者	職員・ボラ
11月20日（金）	リニア鉄道館（名古屋市）	2名	1名、ボラ
11月25日（金）	名古屋港水族館（名古屋市）	2名	2名
1月26日（火）	掛川花鳥園（掛川市）	2名	2名

### ⑦ふれあい体操

毎週月曜日、スポーツプログラマーによる柔軟体操やマッサージ・触感覚運動・関節運動を行い、心身の緊張をほぐしリラクゼーションを促した。月1回（第3月曜日）理学療法士の方にも参加していただき、利用者さん個々の障がい程度に合わせた体操の仕方や注意点等を職員は教えてもらい対応した。

### ⑧リフレクソロジー

毎週1回、1回に3人（一人約30分）リフレクソロジストによる足裏マッサージ（施術前には足浴を実施して足を温めておく）を受け、リラックスした時間を過ごす事ができた。足裏刺激が良い効果となっている。

### ⑨食事

個々に食べやすい形を探り、刻み食（みじん切り・小口切り・一口大）やミキサー食の対応をした。

## 5. 土曜日レクリエーション

土曜日の通所日を利用して、レクリエーション的活動を、年間12回行った。

身体を動かしたり、工作活動やお菓子作りなど、参加者全員で一緒に楽しめる企画が多く、利用者さんの笑顔や笑い声が印象的であった。

日付	内 容	10 / 31	ミニ運動会
5 / 2	工作 (こいのぼり作り)	11 / 7	カラオケ
5 / 9	わらび餅作り	12 / 19	クリスマスの飾り作り
8 / 1	水遊び	1 / 16	お菓子作り
8 / 8	水遊び	1 / 23	書初め
8 / 22	水遊び	2 / 13	お菓子作り
9 / 19	流しそうめん	10 / 31	ミニ運動会

### はまぼう 平成27年度年間行事・バザー表

月	行 事 等	担 当	参加者		バ ザ ー 等	担 当	参加者	
			はまべ会	ボラ			利用者	はまべ会
4	年度始めの会(1)							
5	大掃除(30)	環境美化委員会	○		ヤマハジャンボリー(31)		○	○
6					磐田北高校さみどり祭(6)		○	呼びかけ
7	開所記念日(1) 地域交流会(25)		○ ○					
8								
9	バーベキュー会(26)		○					
10	地域清掃	環境美化委員会						
11	ヤマハ労連観劇(6) ふれあい作品展(28) 大掃除(28)	環境美化委員会	○ ○	○	フェスティバル豊田(1) 光る子まつり(21) 浅羽夢広場 ふくでふれあいまつり(23)		○ ○ ○	○ ○ ○
12			○		施設製品即売会(13)			
1	新年会(6) 個別面談	各G						
2	個別面談	各G						
3	年度納めの会・感謝の集い( ) 個別面談	ボランティア係 各G						
《備考》					《毎日販売》			
<ul style="list-style-type: none"> <li>グループ活動...外食、外出等随時実施。(ボランティアさん参加)</li> <li>※料理作り・スポーツ...活動グループ毎に随時実施。</li> <li>個別体験...個人の希望に沿って時期・場所等を設定。</li> <li>個別面談は...1~3月に実施。</li> </ul>					<ul style="list-style-type: none"> <li>・アプレ・ゲール</li> <li>・お茶の山大園</li> <li>《その他販売》</li> <li>・はまぼう販売</li> </ul>			
					<ul style="list-style-type: none"> <li>・そるとぼとと販売所</li> <li>・iプラザ(喫茶ベンギン)</li> </ul>			

## 7. 音楽活動

### (1)音楽療法

2グループに分かれて月に一度ずつ音楽療法士が中心となり実施。個々の障がいに合わせて工夫がなされており、参加者は自分で選んだ楽器を使ってリズムや音を感じたり、ハンドベル演奏・歌・ボールや体を動かすリトミックなど、音楽を通して普段の活動では味わうことのできない体験を楽しんでいた。9月以降は、先生の体調不良で行うことができなかった。

### (2)ともしびコンサート

音楽活動をしているNPO法人に依頼し、月1回、季節感のある音楽(歌)や楽器に親しむ機会を設け、室内コンサートを開催していただいた。童謡からクラシックまで幅広い音楽に触れられる機会、参加者は演奏を聴いたり皆で歌ったり、楽しく過ごすことができた。

## 8. 環境美化委員会

- (1) 4カ月に1回委員会を開くことは出来なかったが、大掃除前後等、必要に応じて委員会を開き、情報の共有を図ることが出来た。日頃の環境美化については、職員一人一人が意識して取り組めるよう、委員を中心に呼びかけをした。  
毎日の清掃については、職員一人一人が美化につとめ、協力しながら行う事が出来ていた。
- (2) 大掃除については、年度始めにアンケートをとり、希望日に合わせ参加の呼びかけをした。家庭へのお知らせや準備、事前に担当場所等を知らせたことで、戸惑う事なく進めて行くことができた。  
今年度は、夏季・冬季大掃除を土曜日にする事で、多くの保護者さんに協力をしてもらい、実施することが出来た。
- (3) ゴミの分別については、徹底されつつある。  
大掃除前にクリーンボックスを設置することで、大きなゴミを処理することができた。

## 9. 安全委員会

- (1)利用者の方の安全確保
  - ・ 委員会内での話し合い、事故防止・再発防止策検証チェックを行い、事故防止に努めるよう情報収集、安全管理体制の見直しを行った。
  - ・ 「事故報告書」「ヒヤリハット報告書」の集計・活用。
- (2)防災
  - ・ 避難訓練を毎月1回、避難訓練計画に合わせて実施。
  - ・ 法人全体で防災内部研修の実施や緊急時安否確認名簿作成・配布を行った。
  - ・ H23年度より、各施設・事業所の防火管理者による防災担当者会議を開催し、大規模災害時の対応等について協議を継続している。
- (3)施設設備（環境）の保全管理
  - ・ 設備自主検査を9月、3月に実施。  
不具合箇所 ... 詳細については、建物・設備等点検結果表ファイル参照。
- (4)安全運転管理
  - ・ 春、秋の安全運転管理協会の街頭指導に参加。
  - ・ 安全運転管理協会の事務局だよりの連絡。
- (5)緊急事態への対応
  - ・ 緊急事態（車両等の事故）に対しては、各職員がマニュアルに従い、速やかに対応出来ていた。
  - ・ 今後も、マニュアルの検討を重ね、分かり易く対応しやすいものにしていく。

## 10. 生活・保健衛生委員会

- (1)健康診断及び記録について  
健康診断は春と秋に実施。検査当日の欠席者については、レントゲン撮影は個々にかかりつけの病院等へ行き全員実施した。検尿・検便は随時はまぼうで行い、保菌検査は職員、クッキー作業に関わる利用者さん、食事介助に関わるボランティアさんにも毎月実施した。  
血圧については、健診当日は慌しさの影響を受け正しい数値が測定できない場合もあるため日を改め測定した。  
健康診断の結果については、嘱託医に確認・捺印を頂き各家庭への報告をした。必要に応じて家庭への電話連絡も行った。（通院については家庭にお任せした。）  
記録については、個人表、一覧表、嘱託医訪問記録、検査結果等、随時記入するようにした。  
服薬は変更があったら随時書き換え記録するようにした。
- (2)体重測定について  
毎月月初めに実施した。連絡帳に体重表（カード）をはさみ、家庭に連絡し確認印をいただいた。測定の結果を健康チェックの目安とし、食事量を加減したり通院時に持参する家庭もあった。

### (3)機関誌について

保健だよりは、必要に応じて随時《お知らせ》として発行した。

ノロウイルスやインフルエンザについては、緊急のお知らせ（情報公開や予防法）等を各家庭に配布し、注意を呼びかけた。

### (4)衛生面について

身だしなみについては、連絡帳等で家庭と連絡をとり対応している。徹底されつつあるが、改善の必要な人がいるので、引き続き本人や家庭に働きかけをしていく。

ハンカチ所持を呼びかけていることで個人での所持率は高まったが、今後も声掛けが必要。

トイレでのスリッパへの履き替えが定着していない人もいるので、今後も対策が必要。

寝具については布団、毛布の天日干しがあまりされていなかった。

### (5)病気予防について

食中毒や風邪・インフルエンザの予防のため外から帰った時や、食事の前とうがい・手洗いの声掛け・マスク着用を促した。そのため職員が率先して行なう姿勢が多くみられた。

ノロウイルスに関して汚物処理のための消毒薬(3ヶ月ごとの交換)の留置、週一回施設内の消毒薬での拭き掃除を徹底した。

部屋の換気や加湿器の使用を心がけ衛生面に注意した。

感染症についての職員研修を行い、施設内での感染予防を促した。

### (6)防虫防鼠について

環境美化委員会にて大掃除やバルサン実施。

### (7)日用品・医薬品について

トイレットペーパーやボックスティッシュ等、在庫確認の上、随時発注するようにした。医薬品については、使用期限の確認と在庫チェックの上、必要に応じて発注・補充した。

個人で昼に服薬がある利用者さんについては、服用の確認と声掛けを行った。

### (8)着替えについて

最近では、利用者さん一人ひとりが自分の着替えを持ってきているため、ほとんど貸し出すことはなかった。

### (9)歯磨き・うがいについて

各自で食後の歯磨きやうがいを行っていたが、全員が出来ているわけではない。うがいのできない利用者さんもいるが、食後にお茶を飲むだけでも良いと思う。

仕上げ磨きについても習慣づけられている利用者さんはいるが、全員に目が届いているわけではないため、今後も声掛けをしていく。

### (10)歯科検診について

今年度初めて、訪問歯科による歯科検診を実施。はまぼう12名、あにまあと1名の方が診察を受けた。障害のある方の診療をしてくれる医療機関は限られているため、今後につなげていければと考えている。

## 11. 人権擁護・虐待防止委員会

利用者さんの人権を擁護し、虐待を未然に防止するために、管理者を責任者とし、虐待防止の組織（人権擁護・虐待防止委員会）を設置。今年度も研修担当者との協力をし、合同研修会にて虐待防止チェックリストを使用し、利用者さんの人権擁護や虐待防止について職員への周知を図った。会議では、合同研修会での内容についての話し合いを行った。利用者さんの安心、安全と人権擁護の観点から、適正な支援が提供され、利用者さんの自己実現と社会参加のための支援を妨げることのないよう、定期的にまたは適宜、委員会を開催し、虐待の防止に努めていく。

今年度からは、利用者さんの呼称(呼び方)を「さん付け」に徹底できるよう、全職員に呼び掛けを行った。今後も研修会、会議の中で職員の意識の向上を図るとともに、苦情解決担当者や安

全委員会、研修担当者等と連携しながら具体的な活動を計画し、組織として質の高い支援を提供できるよう努めていく。

## 12. はまちゃん会（利用者本人会の代表者会）

主に土曜日の通所日を利用して10回開催した。

恒例となったはまちゃん会主催でのクリスマス会や豆まき会もスムーズに企画・実施する事ができ、利用者さんの自信や楽しみにつながった。

第1回 4/25(土)	今年度の計画	第6回 12/24(木)	クリスマス会
第2回 5/16(土)	地域交流会について	第7回 12/26(土)	クリスマス会反省会
第3回 5/30(土)	クリスマス会について① 意見交換会	第8回 1/14(土)	豆まき会について
第4回 11/21(土)	クリスマス会について②	第9回 1/30(土)	豆まき会
第5回 11/28(土)	クリスマス会について③	第10回 3/19(土)	豆まき会の反省 今年度の反省

## 13. 内部研修

水曜日午後の時間を利用し、年間計画に従い研修担当者で起案を立て内部研修を実施した。

平成27年度は、法人全体研修5回（感染症対策1回、防災について1回、自己評価1回・虐待防止について2回含む）実施した。地域生活支援・放課後等デイサービスとの兼ね合いもあり、職員全員参加は難しかったが、第6回については開所日の就業時間後に行ったため、多くの職員が出席できた。

また、人権擁護・虐待防止委員会とも協力をし、年間を通して2回、虐待防止チェックリストを行い、虐待防止に対する意識付けができるような研修も行った。内部での出張報告については、今年度は実施することができなかった。出張で学んだ内容を職員間で共有できるよう、来年度は定期的に研修を実施するとともに、職員の意欲向上に努めていきたい。

日付	内容	担当者
6/3	地域療育・計画相談・グループホーム・地域生活支援事業の事業報告 理事長の話 (合同研修会)	研修担当
9/2	マイナンバー制度について 理事長の話 (合同研修会)	はまぼう事務 研修担当
11/18	感染症予防について 障害者基本法、権利条約について 利用者さんの呼称について 理事長の話 (合同研修会)	生活保健委員会 研修担当
12/2	虐待防止チェックリスト、グループワーク 理事長の話 (合同研修会)	人権擁護・虐待防止委員会 研修担当
1/27	安否確認表地区ごとの顔合わせ DVD鑑賞(津波に備える)、各施設防災への取り組み (合同研修会)	防災担当 研修担当
2/13	自己評価について、虐待防止チェックリスト 自己評価の項目をテーマにグループワーク 理事長の話 (合同研修会)	人権擁護・虐待防止委員会 研修担当

#### 14. 相談・福田チーム検討会

施設等での外来相談については、サービス管理責任者、相談支援専門員・リーダー・地域生活支援担当者を中心に、磐田市、袋井市等の委託相談事業所などの関係機関と連携をとりながら実施している。内容は、通所に関する相談、学齢児の長期休暇時や放課後の支援の相談、進路相談、在宅者への支援等。法人内のサービスに直結するものでないケースは、地域療育支援センター事業として実施していることもある。特に就学前の重心児への支援は、家族支援も兼ねて対応している。

また福田地区在宅者のケース検討会(福田チーム検討会)や地域包括ケア会議に参加。地区内の各機関が一致した認識をもつことができ、協力して地域生活支援を行っていく土台作りの場となっている。

#### 15. 中遠地域自立支援協議会及び中東遠圏域自立支援協議会

中遠地域自立支援協議会は、磐田市及び袋井市が地域生活支援事業実施要綱(厚生労働省通知)に基づき、障害福祉に関するシステムづくり(相談支援事業等)のため、関係機関の連携強化、社会資源の開発・改善等を推進する目的で設置し、幹事会、代表者会、作業部会(専門部会)をもって構成されている。この参加者については、今年度も法人全体で担当職員を決めて出席。

「相談支援連絡会」や作業部会(精神部会、知的・身体部会)及び「乳幼児期」「就労」「地域生活支援」「重心部会」「防災部会」の各専門部会、そして地域生活支援部会の中の「グループホーム」「ショートステイ」「自閉症・行動障害」の課題別検討会に参加。

この内、「重心在宅支援専門部会」、「防災部会」そして「地域生活支援専門部会」とその中の課題検討会である「グループホーム」「自閉症等在宅支援部会」の担当を福浜会が受けている。

また、今年度「重心部会」は福浜会が中遠地区の事務局となり、東遠地区と合同の中東遠圏域自立支援協議会「重心部会」として活動を行った。第1回目として実施した「わくわく生活検討会」は、圏域スーパーバイザーや相談支援事業所と協力して、医療・教育等の関係者とともに、多くの出席者のもと、在宅支援サービスの充実に向けて話し合いを行った。

#### 16. 重症心身障害児(者)の在宅支援に関する会議

重心ネットワークは、各地区に重心部会ができたことにより活動は行わなかった。今後は、z今年度の活動同様、中遠地域並びに中東遠圏域重心部会としての活動が主となっていく。

その他関係機関との連携や県主催の会議、研修については下記のとおり実施、参加した。

① 特別支援学校等の教育現場の見学、手をつなぐ育成会や肢体不自由児者父母の会等の家族や本人が参加する団体の総会及び活動への参加。

② 重症心身障害のある人の在宅支援に関する会議への参加

静岡県主催：「重症心身障害児(者)在宅支援推進連絡調整会議及び作業部会」

「重心看護従事者・介護従事者養成研修」

「重心ケアマネジメント従事者養成研修」

「県西部子どもの在宅支援ネットワーク協議会」

## 平成27年度あにまあと活動報告

### 生活介護

利用者 現在契約者 5名

<車椅子 5名 うち全面介助者 5名>

	口腔吸引	気管切開	ネブライザー 吸入	経鼻 経管栄養	経管栄養 (胃瘻)	呼吸器管理
A	1					
B		1	1	1		
C	1				1	1
合計	2	1	1	1	1	1

### [1]活動のまとめ

感覚・色彩等を感じる事の出来る作業を多く取り入れながら、体調に留意しつつ皆で協力し合い活動を行った。

### [2]主な作業内容 ～ 紙工芸・粘土細工（小麦粉粘土）・クッキー作り

#### ①紙工芸

色彩を感じる事の出来る作業を行うために折り染めを取り入れ、それをノート・鉛筆の製品にし、紙すきで作った栞とセットで販売。その他、利用者さんの連絡帳・B5版ノートやメモ帳を販売した。

折り染めは個々の自由な感性で染めるため個性的な製品が出来上がった。ノート・鉛筆の糊付け作業は、一人で行うのは難しく職員の介助や確認を必要としていた。

紙工芸製品はバザー等で幅広い年齢層の方に購入してもらう事が出来た。

#### ②粘土細工

マグネット製品を中心に製作した。動物や野菜・花・食べ物など身近な物の形をマグネットに貼り付け販売しており子供さんに好評である。小さな細工を利用者さんが作ることは難しいが、職員と一緒に、指先や手のひらで平らにしたり丸めたりし、作る楽しさを味わえた。

#### ③クッキー作り

利用者さんを中心にそれぞれ自分の出来る工程を担当し、バザー等での販売を中心に行った。利用者さんの活動ペースに合わせる事が難しく忙しい時期もあったが、利用者さんにとっては無理なく活動することができた。

##### a. 生地作り工程

バター・砂糖の攪拌、鶏卵の攪拌、生地を練る作業を行う。バター・砂糖の攪拌と生地を練る作業は、材料をビニール袋に入れることで、その感触を楽しみながら作業することが出来た。

##### b. 型抜き・成型・焼く工程

成型は主に利用者さんが行った。生地をラップに包みテーブルの上や手のひらで平らにするが、程よい厚みで出来る様になった。型抜きを自分の仕事として前向きに取り組む利用者さんの姿もみられたが、厚みにばらつきもあり注意を促しながら進めた。

##### c. 袋準備・袋詰め工程

シール貼り、クッキー・乾燥剤の袋詰め、袋綴じを流れ作業で行った。袋詰めは補助具を、袋綴じはシーラーを使用して、利用者さんを中心に職員と一緒にを行った。袋綴じ

は職員の声掛けで確実に行うことが出来た。

透明な袋に飾りリボンは見たいにも良く好評であった。

### [3]その他の活動

#### ①朝・帰りのミーティング

毎日、利用者さんが交代で司会をして進行。出欠席の確認やその日の活動内容の確認をし、その日の反省・感想等を話してもらった。一日の活動を自分の意思で選択できる利用者さんが増えた。

#### ②散歩・外気浴

出来るだけ外の空気に触れられるよう、体調に注意しながらはまぼう周辺の散歩・玄関前での外気浴を行った。散歩は全員が一緒に出掛けることは難しく、短時間の交代でおこなった。また長い時間外気にあたる疲れしてしまう利用者さんも居たため、散歩を短い距離で済ませ室内で待っている事もあった。又、歩ける利用者さんが車椅子を押すなど、他グループの利用者さんとの関わりもあり仲間意識の向上が見られた。

#### ③足浴

冬季は足浴（場合によっては手浴）を多目に行い、体を温めると共に全身の緊張を和らげる様にした。他グループからの希望者もあり、リラックスした時間を過ごすことが出来た。

#### ④レクリエーション

利用者さんから自分のやりたいものを聞き、職員が出した複数の選択肢の中から利用者さんが選んで行った。普段体を動かす機会が少ない人たちが多いため、ペットボトルボウリングやトランプ・百人一首（坊主めくり）・すごろくゲームなど室内でも楽しめることを行った。音声を楽しむCD紙芝居も内容を毎回利用者さんに選んでもらい、リラックスした時間を過ごしながらか楽しむことが出来た。

#### ⑤外出・外食・納涼会

ボランティアさんの協力を得ながら行なった。

納涼会はグループの恒例行事となっている。夕食のカレー作りや花火など夜までの活動であるが、事故もなく皆楽しそうに参加出来ていた。

実施日	内容（行き先）	参加利用者	職員
5月22日（金）	グループ外出 iプラザ（磐田市）	11名	9名
8月11日（火）	納涼会		
3月11日（金）	食事会	11名	9名

#### ⑥個別外出

実施日	内容（行き先）	参加利用者	職員・ボラ
9月29日（火）	ボウリング&昼食（袋井市）	2名	2名
11月20日（金）	リニア鉄道館（名古屋市）	2名	1名、ボラ

#### ⑦ふれあい体操

毎週月曜日、スポーツプログラマーによる柔軟体操やマッサージ・触感覚運動・関節運動を行い、心身の緊張をほぐしリラクゼーションを促した。月1回（第3月曜日）理学療法士の方にも参加していただき、利用者さん個々の障がい程度に合わせた体操の仕方や注意点等を職員は教えてもらい対応した。

## ⑧リフレクソロジー

毎週1回、1回に3人（一人約30分）リフレクソロジストによる足裏マッサージ（施術前には足浴を実施して足を温めておく）を受け、リラックスした時間を過ごす事ができた。足裏刺激が良い効果となっている。

## ⑨食 事

個々に食べやすい形容を探り、刻み食（みじん切り・小口切り・一口大）やミキサー食の対応をした。

### 放課後等デイサービス

利用者 現在契約者 16名

	口腔吸引	鼻腔吸引	気管切開	吸引 (気切部)	経鼻 経管栄養	経管栄養 (胃瘻)	酸素管理	腹膜透析
A								1
B	1	1				1		
C	1	1				1		
D			1	1		1		
E	1	1	1	1	1			
F						1	1	
G	1	1				1		
合計	4	4	2	2	1	5	1	1

## [1]主な活動内容

### (1)コミュニケーション支援

#### ①音楽遊び

こども達が好む音楽（アニメソング、童謡等）を中心に、音楽鑑賞を行った。リズムに合わせて、手拍子をしたり、身体を揺らしたりする姿が見られた。今後は、興味の幅をひろげられるように、様々な音楽を取り入れていく。

#### ②感覚遊び

積み木や形合わせの玩具を使い、微細運動を行った。継続して行うことで、バランス・形をスムーズに認識できるようになってきた。

バランスボールを使っの、身体全体を動かす遊びを行った。不安定な体勢になることに慣れず、苦手なこどももいた。興味の示し具合を見ながら、今後も誘い掛けを継続していく。

#### ③読本

色彩豊かな本、ストーリーの分かり易い本を中心に、読み聞かせを行った。

外出が可能な時には、市立図書館に出掛けて、普段なかなか読むことのできない本に触れる機会を設けることができた。

### (2)社会化

#### ①統合保育

友達と同じ時間を過ごすことで、自分の気持ち（嬉しいこと、嫌なことなど）を言葉だけではなく、仕草や表情によって伝えられるようになってきたこどももいる。今後は、こども達が気持ちを表出しやすいよう、職員が感じ取れるよう活動をしていく。

## ②外出

散歩（外気浴を含め）は積極的に行うことができた。天気や体調を考慮して、時間等は無理なく行えた。

多人数での外出や、社会体験としての外出は実施することができなかった。

## (3)身体機能向上

ふれあい体操やリフレクソロジーにおいては、普段なかなか動かすことのない関節や、足裏のマッサージを受けることで、良い刺激になっています。

スヌーズレンにおいては、五感を刺激しながらも、リラックスできる環境を作り、普段過敏に反応してしまっている感覚を休ませられるように促しました。

## [2]その他

### 体調管理

医療ケアの必要なこどもが多く、体調を崩しやすいことも多いため、家庭と連絡を密に取りながら、体調管理には気を付けた。

欠席時には、様子伺いを行った。

## 児童発達支援

利用者 現在契約者 1名

	気管切開	吸引 (気切部)	酸素管理
A	1	1	1
合計	1	1	1

## [1]活動のまとめ

1件の契約に至ったが、利用はなかった。すでに他事業所を利用しており、そちらでの生活リズムが整ってから利用依頼があるものと思われる。

事業所利用に関する相談（他事業所も含めて）が数件あった。ご家族の意向や、こどもの状態（医療ケア等）に対応することができる体制を整えていく必要がある。

事業周知のため、広報活動の必要性を感じている。

## 平成27年度そとぼっと活動報告

### 1. 在籍者の状況

平成27年度の定員20名及び定員緩和措置を含めた月別の在籍状況は次の通り

月 区分		27年										28年			合計
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
入所		1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
退所		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
月末 在籍	男	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20		
	女	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3		
	計	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23		

【在籍者障害支援区分】 区分6→4名、区分5→7名、区分4→8名、区分3→4名(年度末時点)

日中一時支援事業デイサービス対象者

月 区分		27年										28年			合計
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
入所		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
退所		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
月末 在籍	男	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	計	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		

### 2. その他の利用状況

項目		27年										28年			合計
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
特実 支習 等生	延人員	0	0	3	0	0	0	3	0	0	0	0	0	6	
	利用日数	0	0	3	0	0	0	3	0	0	0	0	0	6	
実研 習修 生	延人員	0	8	6	2	0	0	4	14	4	8	2	0	48	
	利用日数	0	4	3	2	0	0	1	3	2	4	1	0	20	
見 学 者	件数	0	1	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	4	
	人員	0	1	1	0	0	15	0	1	0	0	0	0	18	
ポテ ライ ンア	延人数	0	1	0	8	1	0	7	2	12	5	4	1	41	
	特記									クリスマス会		豆まき			

### 3. 活動の状況

利用者さん 1 名が加わり、グループ編成も 2 から 3 グループに戻して活動を進めた。利用者さん(生活介護)の平均出席率は、在籍者 23 人中、20. 2 人で多くの皆さんに利用していただいた。利用者さん同士が落ち着いて過ごすことが出来るように、プレハブを増設したり他の部屋を有効的に活用した。

作業活動では新たに空き缶つぶしの作業を取り入れ、グループに関係なく利用者さんの希望する(得意とする)作業を行った。その他の活動として外出や散歩、体育館で身体を動かすこと、音楽鑑賞、料理作り、また宿泊体験や個別体験、水泳、ボーリング、カラオケ等を実施した。また、各グループ毎にご家族に呼びかけて利用者さんと一緒に活動に参加して頂くこともできた。

#### 〔作業活動について〕

##### ① キャップ分離作業(ブリヂストン)

入荷量が減少したため、状況に応じて取り組んだ。

##### ② LDキャップ(ブリヂストン)

得意な利用者さんを中心に、経験のなかった利用者さんも少しずつ取り組むことが出来た。

##### ③ 割箸袋入れ(藤本商会)

紙のさやに割箸を入れる、ビニール袋に入れる、爪楊枝を入れる、ビニール袋を閉じる、おしぼりをポケットに差しこむ、という工程をそれぞれ分担して行い、安定した状況で進めることが出来た。

##### ④ ポスティング(アドポスティング)

2ヶ月に1～2回、磐田駅の南東地区まで出かけ配布物をポストに投函した。配布エリアを安全な地区に限定したので、利用者さんが交代で余裕を持って参加できた。

##### ⑤ キャンドル作り(自主製品)

材料のロウを砕いたり、砕いたロウを型に入れる工程に関わり、手作りのキャンドルを作った。

##### ⑥ ポストカード作り(自主製品)

パソコンのペイント機能を使い、季節に合ったカードや新たなテーマを決めて新作をこつこつと作成した。

##### ⑦ ハンガーモップ作り(自主製品)

ワイヤーハンガーに短く切った毛糸をくくりつけ、成形した後に目鼻をつけてカラフルで表情豊かな「ハンガーモップ」を作成した。

##### ⑧ エコビーズアクセサリー作り(自主製品)

利用者さんが描いたり色付けしたペットボトルを、オーブンで焼いてビーズを作り、ストラップやブレスレットを作成した。

##### ⑨ お茶注文販売

新茶、水出し煎茶、年末年始のシーズンに注文販売を行った。

##### ⑩ 製品販売

年間を通じて各地で行われるイベントやバザーに法人内の施設と協力して参加した。そるとぼつとでの店頭販売は事情により取りやめになり残念だった。また、委託販売は花うたの閉店に伴い i プラザのみになってしまい売上も伸びなかった。

#### 〔その他の活動について〕

##### ① 施設行事

・宿泊体験 (7/10～11、8/28～29、9/4～5、9/11～12、10/2～3)

希望者 21 名のうち 19 名がそるとぼつとに宿泊、2 名は 1 日目のみ参加。5 グループに分かれ、大衆浴場に出かけたりファミリーレストランで好きなメニューを食べたりして楽しく過ごした。

・流しそうめん (8/8)

家族と一緒に、駐車場で流しそうめんを行った。樋を3カ所にしたため、順番を待たずに楽しむことが出来た。利用者さんと家族、35名が参加。

・ファミリーウォーキング (5/1)

ご家族と一緒に竜洋海洋公園にて実施。利用者さんご家族、ボランティア38名が参加。

・ヤマハ労連チャリティー公演 (1/6)

劇団四季「人間になりたかった猫」にご招待いただく。普段体験できないダイナミックなステージを楽しむことができた。利用者さんと付添のご家族、20名が参加。

・クリスマス会 (12/16)

クリスマス会を楽しんだ後、グループ毎に分かれボランティアさんと一緒にケーキをデコレーションして一緒にいただく。利用者さん23名、ボランティアさん5名が参加。

・新年を祝う会 (1/9)

今年の抱負を聞き、後半はグループに分かれ初詣に出かける。利用者さん20名が参加。

・豆まき (2/4)

ボランティアさんと一緒に豆まきをして、クレープ作りを楽しむ。利用者さん21名、ボランティアさん4名が参加。

② 個別体験

利用者さんの希望に沿って一緒に楽しめる内容を計画し、少人数で出かけた。

10 / 13	浜名湖遊覧・フラワーパーク(浜松市)	3名参加 (付添2名)
11 / 20	日本平動物園(静岡市)	3名参加 (付添2名)
12 / 18	掛川花鳥園・JR利用(掛川市)	3名参加 (付添2名)
1 / 26	ウォーキング(エコパ)・外食(磐田市)	2名参加 (付添2名)
2 / 9	あらたまの湯・外食(磐田市)	3名参加 (付添2名)
1 / 22	ランチバイキング(掛川市)	3名参加 (付添2名)

① 料理作り

レクリエーションやグループ活動等の中で、カレーライス、スパゲティ、フライドポテト、パンケーキ、わらびもち、パフェ、ポテトチップ、チョコレート、かき氷等を作って食べた。

② スポーツ・文化活動

利用者さんの希望を確認し、水泳(6名)、ボーリング(4名)、ハイキング(2名)、カラオケ(8名)をそれぞれ小グループで楽しんだ。

③ その他の余暇活動

季節合わせた壁面装飾を一緒に製作して施設内に掲示した。磐田市ふれあい作品展に個人と共同製作で参加。体力作りも兼ねて外出やウォーキングを実施したり、近くの体育館でボール遊び等で身体を動かした。はまぼうで行われる「ともしびコンサート」に希望者が参加した。

④ 避難訓練

毎月、地震または火災を想定して避難訓練を実施、11月には総合防災訓練を行う。今年度は事前予告をしないで実施、消防署への通報訓練も取り入れて行った。

4. グループ活動報告

**せさみグループ** (男性8名、女性1名)

**みんなグループ** (男性5名、女性1名)

朝と帰りの会はそれぞれのグループで行ったが、活動内容や昼食は、利用者さんの希望を確認したり、適性を考慮してグループを超えて実施した。

利用者さん一人ひとりの思いに添えるよう意向を確認しながら活動したが、なかなか全てがとはいかず、むしろまだまだコミュニケーションに課題が残った。また、ご家族のボランティ

ア協力や貴重なご意見をいただくことで根本的なあり方を見直す年となった。

#### ①作業活動

ブリヂストンの仕事量が著しく低下し、この先は無くなって行くとのこと。そのため、昨年度から 取り入れたシートカバーセットの仕事にシフトしている。工程が複数あることから、全員参加で取り組むことができている。また、できる人は限られてしまったが、箸と自主製品作成（ハンガーモップ・ポストカード）を行った。空き缶つぶしについては、2階の利用者さんと共に希望者を募り実施した。

利用者さんによっては、運搬するなどといった動きのある作業の方が向いている人もいるので、作業の一環として取り入れた。（例えば、月曜日、水曜日、木曜日とそれぞれ決められた日に出せるよう、ゴミの取りまとめとゴミ捨て場までの運搬、空き缶の積み込みと運搬、その他納品など）

#### ②その他の活動

月曜日の午後に出外、木曜日の午前に体育館で体を動かす活動、火曜日と木曜は、隔週で外出と作業を取り入れた。金曜日の午後は活動場所の清掃を行った。作業活動中にも少人数での散歩に出掛けた。また、外出方法や内容として、マイクロバスを利用した活動や川遊び・水あそび、等も取り入れた。利用者さんによっては、活動に合わせて 2 階のグループに参加する形もとった。

#### ③グループ活動

10月にハロウィンパーティー、12月に民生委員さんの協力のもとクリスマス会を行った。ご家族と一緒に参加できたこともあり、それぞれに余暇活動を楽しむ姿が見られた。また、土曜日通所の日には、昼食作りも行った。

### ばせりグループ

（男性7名、女性1名）

4月から男性利用者さん1名が加わったことと、対人関係に配慮して新たなメンバーで活動を始めた。

日中活動は作業を中心とし、午前は作業、午後は外出して体を動かしたり自由時間として各自で活動内容を決めたり、おやつを作るなどして気分転換や余暇を楽しむ時間とした。拘りが強く変更が苦手な利用者さんが多いため、混乱や不安を避けるように出来るだけ日課の変更は少なくし、朝の会で確認するようにした。しかし、次第に変更も受け入れることができるようになってきたと感じる。

互いの行動にで影響し合い不安定になってしまう場合には、作業場所を変更する等の方法をとったが、落ち着けない利用者さんもあり、安心できる対人関係と環境の提供に努めた。

また、ご家族からのご指摘を真摯に受けとめ、きめ細かな対応に気を配った。

#### ①作業活動

主な作業として割り箸、ブリヂストンのLDキャップ分離作業、期間の仕事としてポスティングを行った。作業場所や作業工程の工夫などで安定してできるよう配慮した。1名の利用者さんは、外部作業としてベッドメイキングに参加している。

#### ②その他の活動

週2回、午後に外出し散歩等で身体を動かす時間をつくった。  
体育館活動やともしびコンサートには、希望者が参加した。

#### ③グループ活動

12月に忘年会を実施し、ご家族参加で昼食作りや創作活動をして楽しい時間を過ごすことができた。

月末のレクリエーションとしては、5月にホットケーキ作り、7月にパフェ作り、9月には昼食作り、10月にポテトチップス作りをした。

2月～3月に午後の活動時間に利用者さん2名、職員とボランティア各1名ずつで外出し、喫茶店で軽食を食べる余暇活動を実施した。ボランティアとしてご家族の参加をお願い

いし一緒に楽しい時間を過ごす事が出来た。

## 5. 委員会活動

### ①保健委員会

家庭やグループホームと連絡を取りながら、利用者さんの日々の体調を見守った。体調を崩して欠席した場合には、電話で様子伺いをしたり、状況によっては自宅訪問をしたりした。毎月一回、体重測定を実施し体重の変化を把握した。

健康診断の設定は利用者さんに配慮して、はまぼうと松ぼっくりに分けて出向き、採血やレントゲン検査を行った。

今年度は始めて希望者に歯科検診を実施し、9名の利用者さんが参加した。

必要に応じて保健便りを発行し、流行性疾患への注意の呼びかけや対処方法を伝えた。また、今年度より感染症に罹患した場合「感染症治癒証明書」を提出することとなり、インフルエンザに罹患した2名の利用者さんから提出があった。

### ②環境委員会

ご家族の協力を得て、6月と12月の年に2回、大掃除とワックスがけを行った。また、6月にはバルサン散布をし、害虫駆除を行った。

春から秋にかけ、活動の中で施設周辺の草取りを行ったり、職員による駐車場や裏の河川敷の草刈りを定期的に行った。

ごみの分別は、週に3日それぞれのごみの回収日に合わせ、また古紙やペットボトルについても、活動中に利用者さんと一緒に運搬して処分した。

ごみのない綺麗な状態を維持できるよう、毎日活動終了後に部屋とトイレの掃除を行った。水曜の午後には感染予防のため、モップがけと手すり・机・椅子等利用者さんが手に触れそうなところの消毒を行った。

### ③安全委員会

今年度も事故の予防と安全運転に心がけてきたが、下記のような事故(ヒヤリハット)が起こってしまった。外部の子どもさんを巻き込んでしまったり、一歩間違えれば大事故に至る事もあったので、原因と対策をしっかりと確認し、今後に生かしていきたい。

定期的に避難訓練と総合防災訓練(11月)を実施した。利用者さん達も慣れてきたこともあり、事前予告なしで実施し、消防署への通報訓練も取り入れた。また、防災担当者会議を開催し、継続して防災対策に取り組んだ。

10月と3月に設備自主検査を実施。壁等の傷みが増えてきたが、応急処置で済ませ今のところ問題はない。

今後も良い対策を検討し、同じ失敗を繰り返さないよう安全に努めて行く。

[ヒヤリハット] 6件(5名)

内訳：他害行為(1)、転倒(1)、施設からの飛出し(3)、所在不明(1)

[事故] 5件(5名)

内訳：ドアガラス破損(1)、頭部裂傷(1)、買い物中の他害行為(1) ... (利用者)  
公用車輛破損(1)、ポーチ柱破損(1) ... (職員)

## 6. 地域社会との関係

広報活動として、「ふくはまの風」を法人施設と協力して発行した。「そるとぼっと通信」は発行に至らなかった。

事情により販売所をやめてしまったため、地元のお客さんと触れ合う機会が減ってしまったが、外出先や近隣を散策して地域の方との挨拶を積極的に行なった。

地元の民生委員さんをはじめボランティア及び実習生の方を受け入れ、利用者さんと交流していただくことで理解を深めるよい機会になった。

法人内の各事業所、ご家族と協力して「地域交流会」に参加した。地元の方や大勢のボランティアさんのご協力をいただき、音楽や模擬店を中心とした楽しいイベントに参加できた。

## 7. 家庭との関係

連絡ノートに施設と家庭の様子を記入して日々の情報交換を行った。必要に応じて電話連絡や自宅を訪問し様子伺いをした。個別支援計画作成時には全ての家庭と面談を実施し、また個々に家庭からの相談を受け面談を実施した。

ファミリーウォーキング(5月)、地域交流会(7月)、流しそうめん(8月)、大掃除(6月と12月)、活動参観・懇談会(1月)を家族参加で実施した。また、グループ活動でもご家族にボランティアとして参加を呼びかけ、ハロウィンパーティーやカフェ体験等を行った。家族参加の行事等は好評で喜んでいただいた。

## 8. 苦情解決体制

苦情の受付は無かった。こんな一言聞きました報告書として、「職員の支援に対する姿勢」1件を受付た。受付けた内容についてはお詫びをして、職員間で検証し意識を高めた。

## 9. 内部研修

障害者権利条約の批准に伴い、虐待防止、意思決定支援、合理的配慮といった利用者さん本位のより質の高い支援が求められるようになった。職員の専門知識の獲得と技術の研鑽はとても大切なことであり、法人内職員合同研修については他施設担当者と連携をとり、臨時開催も含め年7回実施した。各施設の研修担当者による合同会議を定期的に行い、合同研修会のあり方や自己評価等について積極的に検討を重ねた。また、職員会議の中で文献等の読み合せや出張報告を行った。

日付	内部研修内容	担当者
4/24	ケース検討	研修担当
6/3	<第1回合同研修会> ① 結・地域療育、地域生活支援事業 グループホーム 事業報告 ② 理事長講話	研修担当 各担当職員
6/17	<第1回内部研修> 「虐待について」～下関の施設の虐待事件報道を見て～	各担当職員
9/2	<第2回合同研修会> ① マイナンバー制度について ② 理事長講話	研修担当 各担当職員
9/25	ケース検討	研修担当
11/9	ケース検討	研修担当
11/18	<第3回合同研修会> ① 感染症について ② 障害者基本法、権利条約、呼称について ③ 理事長講話	研修担当 保健委員 各担当職員
11/18	ケース検討	研修担当
12/2	<第4回合同研修会> ① 虐待チェックリストの実施 グループワーク / 発表 ② 連絡事項 「グループホーム」から ③ 理事長講話	研修担当 人権擁護・ 虐待防止委員会 各担当職員
12/2	ケース検討	研修担当

## 10. 地域生活支援

地域生活支援事業、ライフサポート事業、福祉有償運送を利用して、施設の利用時間後や閉所日に、利用者さんや地域の方の支援を行った。そるとぼっとの利用者さんの利用も前年度に比べ増えている。

## 11. 相談業務・福田地区チーム検討会参加

各相談事業所や市町の担当者と連絡をとりながら、利用者さんのご家族や地域の方から相談を受け付けた。内容は、在宅生活を支えるための各支援について、特別支援学校卒業後の進路等について相談があった。

また、福田地区在住のケースについては、各関係機関によるチーム検討会に参加し、引き続き地域生活支援のケース検討を重ねた。

## 12. 中遠地域自立支援協議会(磐田市、袋井市)

主に知的・身体部会の「地域生活支援部会」に出席し、地域の抱える課題についての協議に参加した。課題別には「グループホーム」「ショートステイ」「相談支援事業から見える在宅支援」「自閉症等在宅支援」の各検討会があるが、そるとぼっとは「自閉症等在宅支援検討会」の担当を松ぼっくりと共に受け持ち、特別支援学校卒業後の生活を考えるケース会議にも出席した。

## 平成 27 年度松ぼっくり活動報告

### 1. 在籍者の状況

平成27年度の定員40名及び定員緩和措置を含めた月別の在籍状況

区分	月	27年										28年			合 計
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
入 所		1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
退 所		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
月末 在籍	男	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33		
	女	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9		
	計	42	42	42	42	42	42	42	42	42	42	42	42		

### 日中一時支援事業デイサービス対象者

区分	月	27年										28年			合 計
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
入 所		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	
退 所		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
月末 在籍	男	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3		
	女	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		
	計	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	4		

### 2. その他の利用状況

項目	月	27年										28年			合 計
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
特実 支習 等生	人員	0	0	1	0	0	0	0	1	2	0	0	0	4	
	利用日数	0	0	3	0	0	0	0	2	3	0	0	0	8	
実研 習修 ・生	人員	0	1	1	3	2	0	5	8	1	0	0	0	21	
	利用日数	0	4	3	20	8	0	11	14	1	0	0	0	61	
見 学 者	件 数	0	0	0	0	1	0	1	1	1	0	0	0	4	
	人 員	0	0	0	0	1	0	4	7	1	0	0	0	13	
ポテ ライ ンア	延人数	8	10	6	7	5	1	2	5	0	2	1	4	51	
	特 記														

### 3. 活動の状況

今年度は、Wish、スマイル、ビジョン、樹の4グループでの活動を基本に、グループ間で協力し、一緒に個別外出に出かけたり、変化と動きがみられた年となった。利用者さんによっては、生活習慣病など体調に変化が出てきた利用者さんもあり、特に今年度は例年に比べて、感染症などに罹患する利用者さんも多く、感染拡大などの危機意識を持った対応が問われた年でもあった。

又、スマイルグループの活動場所の老朽化が激しく、日々の活動も心配されている状況ですが、平成27年度補正予算にて国県補助金及び磐田市による社会福祉施設等整備が行なわれることになったため、ひとまず安心である。しかし、ますます地域での様々なニーズが増す中、どのように利用していくか、今後検討していく必要に迫られると感じているところである。

仕事については、引き続き(有)フスマ商会、コーケン工業(株)といった企業内での仕事、さくらの苑、於保老健センターでのベッドメイキングの仕事、そのみ園でのしいたけ収穫、公園清掃といった外部作業に取り組んだ。又、グループごとに請負の仕事やリサイクルの仕事を行った。しかし、自主製品などの新たな作業種の開拓には十分に組み込まなかった。

午前には作業活動を行い、午後は散歩やレクリエーションを行う点は、今年度も同様であった。そのほか、今年度もグループ活動や個別の活動を実施した。

### 4. グループ活動報告

#### Wish

利用者さん一人一人が自分の思いを伝えやすい雰囲気を作り、その中でお互いの思いを伝え合う関係も大切にしてきた。色々な活動を通し、多くの人と触れ合う機会を持ちながら本人が心地良く過ごせる環境を整えてきた。

#### ①作業

個々の作業場所を用意し、本人が仕事を気持ちよく取り組めるようにしている。また、本人のペースやその日の様子に合わせて、作業内容なども工夫してきた。

しいたけ作業については、長年続け定着してきたことで作業種が変わってもスムーズに作業することができている。利用者さんにとっては楽しみの1つにもなっている。

- アルミ缶/回収・缶つぶし・運搬（三光）
- 自主製品作り（メモ帳・連絡ノート・観葉植物）
- しいたけ作業及び販売/週1回 4～7月、11～3月（森町 そのみ園）
- ふすま組立て作業/週1～5回（(有)静岡フスマ商会）
- お茶の委託販売（恵松学園）
- リングはめ（コーケン工業）○いちごのポット作り（鈴木農園）

#### ②午後の活動

午後の活動はリフレッシュすることを心掛けてきた。施設周辺を散歩したり、公園に出かけたりして身体を動かした。また、室内活動（カラオケ等）や図書館でCDを聴く等、ゆったりと過ごす時間もあった。他にも桜を観に出かけたり、かき氷作りをしたりして、季節を味わう機会も取り入れ、みんなで楽しんだ。ふれあい作品展の時期には、クリスマスツリーや写真立てを共同で作る時間を設けて出展している。

#### ③その他の活動

行事を兼ねたグループ外出・宿泊体験等は、皆で行き先、行き方、夕食等の意見を出し合う中で、計画を立てた。また、一人一人がそれぞれの楽しみを持ちながら参加でき、終わってからそのことを楽しく思い出し、嬉しそうに話をする様子も見受けられ、普段の活動にも励みを持って取り組むことができた。個別外出では他グループの利用者さんや職員と一緒に出かける機会も多く取り入れ、交流を深めるきっかけを作ることができた。

## 【グループ活動】

活動の種類	内 容
グループ外出	遠州灘海浜公園散策
グループ外出	ジョイフルにて外食
宿泊体験	コテージ・アクティ
クリスマス会	ジョイフル豊田町店・ミスタードーナツ豊田町店
初詣と新年会	小国神社とステーキ宮
年度納めの会	1年間の振り返り・マクドナルド・遠州灘海浜公園

## 【個別外出】

行 き 先	内 容
ホテルウエルシーズン浜名湖・浜名湖パルパル	プールと入浴・買い物と散策
エアパーク・新造形創造博物館	散策、イオン志都呂外食とスイーツデコ体験
浜名湖パルパル	遊園地&バイキング
浜松市動物園とフラワーパーク	園内散策と買い物
エスパルスドリームプラザ	ドライブ&ちびまるこちゃんランド見学
豊橋動植物公園	園内散策と外食

## スマイル

利用者さんひとりひとりにとって1日の見通しが立ちやすいカリキュラムを組むことで、安心して活動に参加できるように環境を整えた。

### ① 作 業

利用者さんひとりひとりに合わせて作業を組み合わせていった。また、集中して作業を行える環境を整えていく中で利用者さんのエンパワーメントを高めていけるよう配慮した。様々な作業に取り組む中で個々のスキルアップ、能力の高さを改めて実感できた。

○ブリヂストン（CKTキャップ分離作業、LD塗装下キャップ清掃作業）

○コーケン工業（リングはめ）○大洋工業（保護カバーの袋詰め）○缶回収（4箇所）

### ②午後の活動

午後は、「外出」を基本とし、ひとりひとりがリフレッシュできるよう心がけた。季節を感じながら身体を動かす良い機会となった。選択する経験、そして楽しみになるようにと外出先の自動販売機でジュース、アイスを購入する機会を作り、利用者さんの楽しみに繋がった。

### ③その他の活動

○グループ外出・活動

季節に合わせて外出先を選び計画・実施した。グループ活動としては、月2回おやつをもって公園へ出掛けた。（地域内の店でおやつ、大判焼き等を購入）

利用者さんが楽しめるような活動を来年度も計画していきたい。（お菓子作りなど）

内 容			
6月	かき氷作り	1月	初詣（小国神社）
11月	外出&みどりや・買い物	3月	たこまん工場見学&外食（ココス）
12月	クリスマスケーキ作り		

### ○個別外出

年に1回、希望者対象で実施した。各利用者さんが楽しめるような場所や内容を計画したことで、普段とはまた違う素の表情を見せ、リラックスできる時間となったと思われる。

#### 【個別外出】

時 期	行 き 先	内 容
9月	浜名湖ガーデンパーク	園内散策と外食
11月	浜名湖パルパル	遊園地&バイキング
1月	エアパーク&新造形創造館	散策、イオン志都呂外食とスイーツデコ体験

### ○宿泊体験 (10/2～10/3)

松ぼっくりの施設を利用して実施。宿泊ということで落ち着かない一面も見られたが、普段の活動では見られない笑顔が見られ良い体験となった。地元の定食屋での食事も楽しめた。

## ビジョン

### ①作 業

#### 【内職、仕事について】

- ・千栄加工（クリップ、カード入れなど事務用品の組立て）
- ・堀住加工（袋入れ、ホチキス止め作業）
- ・コーケン工業（リングはめの仕事）
- ・静岡フスマ商会（梱包用のダンボール作り）
- ・さくらの苑、於保老健センター（ベッドメイキングの仕事）
- ・缶回収
- ・公園清掃（ふるさと公園）

### ②午後の活動について

午前引き続き内職など仕事をする人もあれば、公園で身体を動かしたり、図書館でゆっくりと音楽を聴いたり、カラオケを歌ったり、新聞を読んだりして、リフレッシュする人もありました。活動内容について皆と相談し、お互いに気持ちに折り合いをつけながら、楽しく活動に参加できるように工夫してきました。

### ③その他の活動について

利用者さんのアイデアを活かしたり、思いを大切にしながら下記のように行事を行ってきました。全てを実現できたわけではありませんが、引き続き来年度へつなげていけるような活動を心掛けました。

- ・個別外出 ... 個々の希望に沿って年1回実施しました。  
(映画鑑賞、動物園、遊園地、買物、外食、コンサートなど)
- ・グループ外出 ... 季節ごとの活動として、いくつかのグループに分かれて実施しました。  
(プール、空港、工場見学、初詣、外食など)
- ・宿泊体験 ... 9/4～5、9/11～12の2回に分かれて実施しました。  
利用者さんたちが楽しみにしている年間行事のひとつになっています。日課を終えて、ななつぼしやリフレUで入浴を済ませてから、参加している皆さんの希望にそって外食をしました。夜は、仲間同士でおしゃべりをしながらお酒を飲んだり、テレビを見て楽しみました。また、職員とじっくり話をしている姿もありました。
- ・季節の行事・・・七夕飾り作り、クリスマスの昼食会、節分豆まき、初詣
- ・おやつ作り・・・ホットケーキ、たこ焼き

### 【グループ活動】

活動の種類	内 容
グループ外出	御前崎市民プールすいすいパークぷるる
宿泊体験	松ぼっくりを利用して宿泊、外食
グループ外出	アクティ森散策
初詣(お参りと外食)	五社神社とすたみな太郎、小國神社、可睡齋

### 【個別外出】

行 き 先	内 容
ららぽーと磐田	買い物と映画鑑賞
日本平動物園	園内散策と食事
サンストリート浜北	映画鑑賞・買い物・カラオケ
ラグーナ蒲郡	買い物と外食

## 樹 G

「本人の思い」を大切にしながら、相手の気持ちも思い伝え合える関係作りをしてきた。また、気持ち等相談出来やすいような環境を整えた。

作業面では、それぞれの目標を持ちながら取り組み無理のない作業内容で出来た喜びを味わえるようにした。

活動面では、楽しめる事を中心にリフレッシュする時間を大切にしました。身体的な事も考え、仕事前に簡単なヨガ・活動中には散歩・卓球など簡単な運動を取り入れた。また、全員・小人数で活動する事を交互に行う事で、他の利用者さんに合わせる力を持って、自分の気持ちを言い合える関係作りが出来るように努めた。

#### ①作 業

気持ちよく作業に取り組めるよう、環境を整え、作業への意識、意欲が継続的に持てるように寄り添いながら過ごした。

- ・(株)コーケン工業 (リングはめ作業)
- ・千栄加工 (クリップ・カード入れ)
- ・堀住加工 (袋入れ)
- ・公園清掃 (ふるさと公園)
- ・(有)静岡ふすま商会 (ふすまの組み立て・出荷用の箱・出荷時の衝撃緩和材作り)
- ・自主製品 (曼茶羅アートのメモ帳・ノート、ポチ袋、縫製品等)

#### ②その他の活動

##### <午後活動>

利用者さんが、自分の意見を出し相手の意見を聞く中で、活動を選び決めていった。また、季節を感じられるような工夫をし羽子板・凧揚げなども取り入れた。

(内容：ドライブ、買い物、散歩、カラオケ、DVD 鑑賞、おやつ作り、パソコン、音楽鑑賞・w i i スポーツ等)

##### <グループ外出>

利用者さんが意見を出し合い、計画を進めてきた。

## 【グループ活動】

活動の種類	内 容
グループ活動	ムラカミ精肉店にコロッケを買い、昼食で食べる会
グループ外出	遠州灘海浜公園散策
クリスマス会	テイクアウト・パーティー形式で実施。
初詣	初詣～五社神社、鴨江寺、ラフェスタ鴨江にて食事
年度納めの会	ジョイフル～食べながら年度納めの会

### <個別外出>

個々の希望に応じて決めていった(場所・人数等)。他のグループの利用者さんと一緒に行く機会も設けた。

#### 【個別外出】

行 き 先	内 容
イオン市野・ららぽーと磐田他	買い物と散策
ラグーナ蒲郡	散策と買い物、外食
シダックス	カラオケと外食
浜松市動物園&フラワーパーク	散策と買い物

### <宿泊体験>

9月に、松ぼっくりで宿泊を行った。利用者さんが主体となって意見を出し合い内容を決めていった。恒例で、楽しみな行事でもあるのでそれぞれのペースで、無理なく過ごすことが出来た。食事や買い出し、お風呂、花火などの場面ごとに、それぞれの楽しみ方をして過ごしていた。

## 5. 音楽活動

### 【ともしびコンサート】

音楽活動を中心に活動しているNPO法人に依頼し、月1回、季節感のある音楽(歌)や楽器、歌のリクエストなどに親しむ機会を設け、室内コンサートを行う。「ともしびコンサート」も恒例となっており、専門家による演奏を聴いたり歌を歌ったり、皆で楽しくリフレッシュする時間を過ごすことができたように思う。

## 6. 環境美化委員会

◎大掃除・・・年2回に分け、ご家族の力を借りながら実施した。

第1回目・・・6月26日(金)、7月1日(水)

1日目・・・窓拭き外側・窓拭き内側・網戸・トイレ・草刈り・作業棟、外壁

2日目・・・部屋の掃除・部屋のWAX掛け・剪定・事務所 ※2日目は職員のみでの実施。

第2回目・・・12月18日(金)、12月19日(土)

1日目・・・窓拭き外側・窓拭き内側・網戸・トイレ・作業棟・外壁

2日目・・・部屋の掃除・部屋のWAX掛け ※2日目は職員のみでの実施。

◎日常の掃除・・・毎日放課後にトイレ掃除・床のモップがけを行ってきた。また、毎週金曜日、午後の活動に掃除を組み入れ、利用者さんと一緒に取り組んできた。

(毎日使っている作業室や食堂・トイレ・車洗い等)

◎草刈り・草取り・・・第1回大掃除の時に建物周辺の草刈り・草取りをご家族と実施した。また、地域交流会の前にも法人内の職員に協力を仰いで実施した。

- ◎ゴミ出し・・・市の定める規則に従って収集日の前日にゴミの分別を行い、当日ゴミ当番が集積所へ出した。古紙・ダンボールについては、市内に設置してある古紙回収ステーションへ搬入して処分をした。
- ◎施設周りの美化・・・施設の周囲に燃えやすい物がないか等の見回りや竹やぶに落ちているゴミの処分を行った。
- ◎粗大ゴミの処分・・・地域交流会と大掃除の時期に合わせてコンテナを借り、施設内やハウス等の整理を通して粗大ゴミの処分を行った。
- ◎経費節減・・・引き続き、無駄な電気や水の利用を控えるような働きかけや失敗してしまったコピー用紙裏紙利用の推進を図ってきた。
- ◎暑さ対策・・・夏場は作業棟周りによしず等を設置して暑さ対策を行ってきた。
- ◎防虫対策・・・6月30日（火）の放課後、施設内及び作業棟内において一斉にバルサンを実施。

## 7. 安全委員会

### ① 活動の報告と反省

- ・ 年度内の事故は2件、ヒヤリハット報告は4件。朝のミーティングや会議などを通して、その他にも事故につながらないようにケース報告などを通して情報の共有し、職員の連携が高まるように努めた。
- ・ 磐田市、袋井市などで起きた交通事故の情報を職員に伝達、回覧をしていく中で、交通安全の意識を高める機会を設けた。
- ・ 研修を実施し、安全運転管理協会から借用したDVDを元に出会い頭事故の危険性について学び、またグループディスカッションを通して日頃からヒヤリとするケースや地域の事故が起きやすい場所の情報やシチュエーションについて活発に意見を出し合った。

### ② 来年度に向けて

- ・ とにかく、ヒヤリハット報告の充実に力を入れていく。
- ・ 回覧の仕方など見ても情報の伝達について工夫が必要に感じる。単に広く情報を広めることが必ずしもプラスに働くことばかりではないので、必要な事をしっかりと伝えていくようにできると良い。
- ・ 朝のミーティング簿が現在一番活用されているので、これを十分に活用していくことを考えていく。
- ・ 活動計画の作成、事故報告書のまとめ、建物の状況チェック、ヒヤリハットのまとめ（ミーティング簿より）を分担して実施していく。

## 8. 生活・保健衛生委員会

- ① 健康診断の実施（春）... レントゲン検査、採血、保菌検査、検尿、血圧、身体測定、嘱託医による問診（秋）... 採血（春に未受診の方）、保菌検査、検尿、嘱託医による問診 歯科検診実施。（11月）
- ② 記録の管理・記入・・・健康記録表、健康診断個人表、健康診断結果表、嘱託医訪問記録、投薬記録（緊急用も含む）の記入 ⇒松ぼっくり～発作の記録は、不十分だったので年度末にチェックしていきたい。また、投薬記録の変更も十分でなかった。
- ③ 個々人への衛生面への配慮  
⇒入浴、洗髪、整容、手洗いなどをチェックし声かけや家庭への連絡等を行なった。
- ④ 感染症への対応
  - ・ インフルエンザやノロウイルスが流行期には、手洗い・うがいの声かけ、部屋の換気の実施などを積極的に行なった。水曜日の午後の清掃終了後、次亜塩素酸ナトリウムで消毒を行ない、流行期は毎日実施した。

- ・ インフルエンザ⇒利10名がインフルエンザに感染、通所停止となった。  
(職3名・・家族の感染による出勤停止)2名の方より「感染症治癒証明書」の提出があった。
  - ・ 嘔吐下痢症の疑いで利1名が自宅待機等の処置をとった。
  - ・ 急性胃腸炎の利1名が自宅待機等の処置をとった。※吐物処理セットを購入し、各グループに設置するようにした。
- ⑤保菌検査・・・利用者さんは、健康診断時(春・秋の2回)、職員は毎月実施した。
- ⑥『保健だより』の発行・・・時期や状況に合わせた情報提供をした。
- ⑦体重測定の実施・・・毎月1回実施し、体重表を通して各家庭にお知らせした。
- ⑧職員研修・・・合同研修を実施し(年1回)、感染症の知識を再確認する機会を設けた。

## 9. 行事・バザー報告

月		行事等	担当	バザー等
4	16日	地域交流会会合		
	27日	レントゲン検診		
5	18日	はまべ会役員会・会計監査		
	27日	健康診断(血液検査等)		
	28日	はまべ会総会	31日	ヤマハジャンボリー
6	26日	大掃除(26、7/1)	6日	磐田北高校文化祭
7	25日	地域交流会・法人20周年	25日	地域交流会バザー うなぎ、寿司販売
8	20日	地域交流会反省会		
	25日	サマーショートボランティア		
9				
10	1日	城山中学福祉体験学習		
11	6日	ヤマハ労連観劇	1日	フェスティバル豊田
	11日	健康診断(問診等)		
	12日	福田中学福祉体験学習		
	17日	歯科検診	21日	光る子まつり
	28日	ウォーキング(はまべ会合同)	23日	ふれあいまつり
12	18日	大掃除・クリスマス会(各G)	13日	ぬくまるマーケット
1	15日	成人を祝う会		
2		個別面談		
3		個別面談・年度納めの会		
	15日	はまべ会役員会		
	22日	はまべ会		
毎月1回 ともしびコンサート開催				
毎月1回 避難訓練実施				
随時 浜松学院短大(保育実習Ⅰ)、東海福祉専門(相談援助実習)、磐田北高(介護実習)				
随時 袋井特別支援学校現場実習及び保護者福祉事業所体験				

## 10. 人権擁護・虐待防止委員会

利用者さんの人権を擁護し、虐待を未然に防止するために、管理者を責任者とし、虐待防止の組織（人権擁護・虐待防止委員会）を設置。今年度は研修担当者と協力し、合同研修会にて利用者さんの人権擁護や虐待防止について職員への周知とともに学ぶ機会を持つとともに、日常的な自己点検をするために「虐待防止チェックリスト」を機会あるごとに実施するよう努めた。

又、利用者さんの呼称の面も、朝のミーティングなどで呼びかけ、自分自身で確認するように提案した。

## 11. 内部研修

年間計画を基に研修担当者で企画の立案と実施を行った。主に、水曜日の午後の時間を研修活動に充て、法人全体研修6回、内部研修会1回の計7回にわたり研修活動を実施した。

今年度は合同研修会を中心に実施し、人権擁護・虐待における意識を深めたり、防災（主に津波や地震）に関する内容を取り入れ、緊急時における対応の確認や防災意識を高めていく機会を設けた。

次年度は職員が興味や関心を持って研修に参加できるよう、内容によっては外部の講師を招くような企画も視野に入れていきたい。

### <活動内容>

日付	内容	担当者
6/3	結・地域療育、地域生活支援事業、グループホームの事業報告、理事長の話（合同研修会）	各担当者 研修担当者
9/2	マイナンバー制度について、理事長の話（合同研修会）	はまぼう事務 研修担当者
11/18	感染症について、障害者基本法、権利条約、呼称について、理事長の話（合同研修会）	生活保健委員会 研修担当者
12/2	虐待チェックリストの実施、グループワーク（県知協のアンケート結果を活用）、理事長の話（合同研修会）	人権擁護・虐待防止委員会 研修担当者
1/27	安否確認地区別顔合わせ、DVD鑑賞「津波に備える」、避難の具体的方法（各施設担当者より）、理事長の話（合同研修会）	防災担当者
2/13	アイスブレイキング、自己評価・虐待チェックリストの実施、グループワーク（自己評価チェックリストに基づいて）、理事長の話（合同研修会）	研修担当者 人権擁護・虐待防止委員会
3/30	運転についての自己診断（セルフチェック）、DVD鑑賞「出会い頭事故を防ぐ」、グループディスカッション、アンケート記入（内部研修会）	安全委員会

## 12. 苦情解決体制

平成27年度としては、苦情受付として0件、こんな一言聞きました報告3件という状況であった。内容については、職員の対応に関するもの1件、サービスの内容に関するもの1件、施設や法人の対応に関するもの1件であった。特に「松ぼっくり」としては、今年インフルエンザなどの感染症に罹る方がいて、その対応方法について集団生活を意識した上で、一人一人の安全や感染の危険性について考慮したものになっているか、考えさせられる機会があった。最終的に、一人でも感染者があれば、困惑を承知した上で情報として家族の皆さんに伝えることとした。

### 13. 相談・福田チーム検討会

施設等で受ける相談については、相談支援専門員・リーダー・地域生活支援担当者を中心に、磐田市、袋井市等の委託相談事業所などの関係機関と連携をとりながら実施している。内容は、通所に関する相談・在宅者への生活支援、学齢児の長期休暇時や放課後の支援相談・進路相談等。また福田地区在宅者のケース検討会(福田チーム検討会)に年5回ほど参加。地区内の各機関が一致した認識が持てるように、協力して進めている状況である。

又、高齢者のご家族を持つ家庭での利用者支援について、地域包括支援センターをはじめ、ますます地域での連携を深めていく必要があると感じている。

### 14. 中遠地域自立支援協議会

中遠地域自立支援協議会は、磐田市及び袋井市が地域生活支援事業実施要綱(厚生労働省通知)に基づき、障害福祉に関するシステムづくり(相談支援事業等)のため、関係機関の連携強化、社会資源の開発・改善等を推進する目的で設置し、幹事会、代表者会、作業部会(専門部会)をもって構成されている。参加については、今年度も法人全体で担当職員を決めて、その職員を中心に必要に応じてその他職員も参加した。

作業部会(精神部会、知的・身体部会)及び「乳幼児期」「就労」「地域生活支援」「重心部会」「防災部会」の各専門部会、そして「グループホーム」「ショートステイ」「自閉症等行動障害」の課題別検討会に参加。

この内、「重心在宅支援専門部会」、「防災部会」「地域生活支援専門部会」とその課題別検討会である「グループホーム」「自閉症等在宅支援」の担当を福浜会が受けている。

## 平成27年度 潮の香活動報告

### 1 平成27年度の定員（20名）の月別在籍状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
退所	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
男	16	16	16	16	16	16	16	16	15	15	15	15
女	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
計	21	21	21	21	21	21	21	21	20	20	20	20

### 2 その他の利用状況

項目	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	特実支習等生	延べ人員	0	0	13	0	0	0	12	0	0	0	0	0
	日数	0	0	13	0	0	0	12	0	0	0	0	0	25
実研習修・生	延べ人員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3
	日数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3
体見験学・者	人員	0	2	1	0	0	0	0	9	0	0	0	0	12
	件数	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	3
ポテラインア	延べ人数	16	18	17	18	12	16	15	14	13	16	13	16	174

### 3 活動の状況

#### (1)仕事について

本年度も、地域に根ざした自主製品の「祭典用のき花作り」、請負の「堀住加工有限会社（ヤマハのオートバイ部品）の袋詰め・ホッチキス留め」、「ダイオ化成株式会社（網戸張替用ローラー）の袋詰め」、「有限会社マックスのダミー作業」の仕事を行ってきた。

また、地域の一員として事業所で働くことを考え、引き続き「コーケン工業（自動車部品）」と「静岡フスマ商会（襖の組立等）」と「カネ長水産（しらす加工）」と「さくらの苑・於保老健（ベッドメイキング）」へ出向を行ってきた。

#### 《のき花製作》

今年度も福田地区祭典用のき花の、製作総本数約2,340本（寄付を含む）を利用者さん・職員及びボランティアさんの協力を得て作業を進め、無事に出荷することができた。

※本年度も豊田地区と竜洋地区から注文を受けた。

#### 《請負作業》

「ヤマハのオートバイ部品の袋詰め」を行ってきた。日によって量や部品の形・大きさが違っているが、そのことにも対応する能力を持ち、積極的に作業に取り組んできた。「ダイオ化成株式会社」の仕事は、網戸張替用のローラーを袋に入れてから箱詰めする作業で、袋入れに主に1名が関わっており、自信を持って取り組むことができている。また、ヤマハの仕事の合間を縫って行っている、電気部品のカプラへのダミー作業「有限会社マックス」は始めてから3年半が経った。細かな作業だが集中できるよい仕事となり、今ではやりたい仕事の一つとなっている。

#### 《外部作業》

地域への社会参加と就労支援の一環として、地域の事業所等に積極的に出掛けて仕事をする機会を作ってきた。

コーケン工業㈱には現在も男女4名が出向しており、新しい作業に挑戦したり作業量を増やしたりするなど、自分の持つ力を十分作業に発揮し、充実した毎日を過ごすことができている。

(有)フスマ商会とカネ長水産には男性1名ずつが出向している。すでに長く働いているため事業所との信頼関係もあり、安定して出向できている。

また、老人介護保険施設さくらの苑と於保老健へベッドのシーツ交換作業に1名が出掛けるようになってから2年が経った。週に2回のみではあるが作業にも慣れ、休まず仕事に励んだ。現在、その方が退所となったため、外部作業を勧めたい方にバトンタッチしており、今後は日数を増やしていきたいと考えている。

#### (2)その他の活動

毎日が作業中心の生活であるため、みんなが楽しめる活動を目指し年間計画を立てて実施してきた。各種行事・外出には利用者さんの意見を取り入れながら企画し、充実した楽しい活動内容となった。

##### ① スポーツ・散歩・レクリエーション等

朝のラジオ体操・ストレッチ体操・散歩は毎朝励行してきた。ペットボトルに水を入れて利用したダンベル体操や、タオルを使うストレッチ体操も行った。

今年度のスポーツはニュースポーツ体験を行った。体育館を借り市のスポーツ推進委員の指導で、Gボール等の軽スポーツを、爽やかな汗を流しながら楽しむことができた。

今後も、やりやすく利用者さんに適した運動はどんなものがあるか検討し、利用者さんの意見も取り入れながら、体を動かす活動を考えていきたい。

② 料理作り

土曜レクに希望者対象で職員と一緒におしるこ作りをして楽しんだ。

③ 音楽・美術の鑑賞及び出展

美しいもの、創造的なものに触れるための美術鑑賞・音楽鑑賞会を積極的に行ってきた。美術関係では、磐田市図書館で行われた磐田市在住の作家の作品を鑑賞し、身近な風景画や人物画、工芸品等に親しむことができた。また、今年度もふれあい作品展に1名が出展し、趣味で撮り続けている写真を多くの方に鑑賞してもらい、喜びを感じることができた。

音楽関係では、地域交流会で間近に楽器演奏や歌を聴き、一緒に歌ったり踊ったりすることができた。また、ヤマハ労連主催のチャリティー公演ではミュージカルを観劇し、大いに笑ったり歌ったりと楽しむことができた。

日常的な音楽活動は、利用者さんと季節ごとに選曲した歌を、朝の会で毎日欠かさず歌ってきた。今年度は「ふるさといわた」「365日の紙飛行機」などを歌ってきた。声を出すことによって元気が出たり、合唱でみんなの気持ちがまとまったりする効果があるので、今後もずっと続けていきたい。

④ 野外活動（年間5・6回実施）

普段の利用者さんとのコミュニケーションから野外活動のヒントを得て、行き先等を決めてきた。そして、どの野外活動でも意欲的に取り組んできた。

主なものとして、お花見は、森町の太田川沿いの桜を見に弁当を持って出掛け、満開に咲き揃った花を見ながらおいしく昼食をとった。午後にはアクティ森へ向かい、昔の遊びを楽しんだ。8月には作業棟の敷地で流しそうめんを行い、楽しみながらお腹いっぱい食べた。10月のウォーキングは藤枝の蓮華寺池公園まで出掛け、高台まで頑張って歩き素晴らしい眺めを堪能した。11月のミニ旅行は、清水の東海大学海洋科学博物館へ行った。ゆっくりと泳ぐ様々な魚を見て、癒しの時間を過ごすことができた。

⑤ 個別体験

今年度も、年1回の個々が希望する体験を行った。個人や少人数で出掛け、それぞれ一日を楽しく過ごすことができた。

・ 7/30	カラオケと食事	1名参加（職員1名）
・ 9/29	のんほいパーク	4名参加（職員2名）
・ 10/19	海釣り食事	1名参加（職員1名）
・ 10/27	温泉と食事	1名参加（職員1名）
・ 11/5	エアーパークとフルーツパーク	2名参加（職員1名）
・ 11/16	買い物と食事	1名参加（職員1名）
・ 12/10	リニア・鉄道館	6名参加（職員2名）
・ 1/14	映画鑑賞	1名参加（職員1名）
・ 1/30	買い物と食事	1名参加（職員1名）
・ 3/11	掛川桜見物	1名参加（職員1名）

⑥ 誕生日（BDショッピング）

利用者さんの誕生月に、朝の会等でお祝いの言葉をかけたり、買い物に出掛け決められた金額（500円）の中で好きなものを買ったりして、楽しく実施できた。（例：お菓子、日用品、CD、雑貨など）

#### ⑦ 地域清掃

散歩をしながらゴミを拾う活動を行った。少しでも地域のために役に立つこと、また、きれいな心を育むためにと、「ひろ道ウォーク」を月に1回のペースで続けてきた。(冬期12月～3月は休止した)

今年度は、潮の香周辺や福田地区の公園周り、太平洋岸自転車道なども行ってきた。安全に配慮しながらこれからも続けていきたい。

#### ⑧ イオン幸せの黄色いレシートキャンペーン

活動ではないが、今年も皆様の温かなご協力により、今回は16,000円程の助成をいただいた。助成金はイオンギフトカードとして寄贈され、一人ずつの物としてお菓子や日用品などに替え、皆さんへお渡しすることができている。

#### ⑨ その他の活動

今年度は新しく、納涼祭と忘年会を開いた。納涼祭には作業棟の敷地でかき氷、ポップコーン、綿菓子などを食べて楽しんだ。忘年会では臼で本格的にお餅を搗き、きな粉やあんこ、しょう油など自分で選んで食べた。お餅を初めて搗いた方や、懐かしく思った方もいて良い体験になった。自分たちでついたお餅は特別においしく感じた。

また、今年度もかもめ～るを書いて、日頃お世話になっているボランティアさんや保護者の方、外部作業先の事業所さんなどに暑中見舞いを伝える機会を作った。

### (3)食事等について

- ・ 歯が弱い方、呑み込みが難しい方には、食べやすい大きさに刻む支援を行った。
- ・ 健康に配慮しなければいけない方については、給食の油物を少し減らしたり、ソース・醬油をかける量を調節したりする支援を行った。
- ・ 食事後、食堂の床の雑巾がけを利用者さん全員の当番制で行ってきた。進んで取り組める利用者さんが多かった。

### (4)健康管理及び安全

利用者さん一人ひとりの健康を維持し、体力の向上を図るために、次のような支援をしてきた。

- ・ 日常生活の衛生面においては、手洗い、うがい、歯磨き等の励行を強力に進めてきた。ドアノブや手すりなど頻繁に触れる場所は、週1回の消毒を行ってきた。感染症が流行る時期には頻繁に行い、他に空気を除菌・消臭する薬品も設置した。今年度は一人もインフルエンザにかかることなく済んだ。
- ・ 朝のラジオ体操・ストレッチ運動・散歩は毎日欠かさず実行できた。ストレッチは利用者さんに先生になってもらい、意識を高めてもらった。
- ・ 心の悩みを訴える利用者さんには定期的に話を聞いたり、表情や身体の変化が見られる利用者さんには職員から積極的に話し掛けたりして、その対応を図った。心の病はすぐには改善されないため、主治医との綿密な連携や職員による傾聴など、必要に応じて対応を考えてきたが、本心を聴き出すことや実際の状態を知ることの難しさを改めて感じた。
- ・ 通所のための自転車利用者に対しては、帰りの会等で毎日のように交通安全注意を呼びかけてきた。また、保護者さんにも呼びかけ、以前から検討していた交通安全指導員による交通安全教室を10月26日に実施した。映像を使って分かりやすく教えていただき勉強になった。

- ・ 地震（津波）及び火災を想定した避難訓練を毎月1回実施し、安全で迅速な避難ができるようさまざまな場面での「予告なしの訓練」を行ってきた。

11月30日は、磐田市消防署の協力を得て総合防災訓練を実施した。本所と作業棟それぞれで通常の屋外への避難を行った。また、職員による通報訓練や全員で消火器の取扱いと消火方法を指導いただき、火災への対応を学んだ。

## (5)委員会活動

利用者さんの生活・健康管理並びに安全・環境整備等について、松ぼっくりと協力して委員会を設け、協議や活動を行ってきた。

### ① 生活・保健衛生委員会

- ・ 健康診断の実施（5月27日、11月11日）

レントゲン、採血、嘱託医による問診、保菌検査（年2回）

身体測定（身長・体重）・検尿と血圧（潮の香で実施）、体重については毎月実施し、連絡帳の表に記入し家庭にお知らせした。

- ・ 個人の衛生面への配慮

入浴、洗顔、洗髪、整容、うがい、手洗い、歯磨きなどの励行と、家庭との連携を図ったがまだ十分ではなかったため、引き続き働きかけていく。手洗い・うがいは外出後必ず行い、点検も実施してきた。歯磨きは食後に行い、磨きが苦手な方には職員が手を貸してきた。出来たら表に印を付けるようにし、意識を高めている。

ハンカチの所持やトイレでの靴の履き替え、汗拭きについては常に声掛けをしてきたが、十分ではなかった。

- ・ 希望された7名の方が歯科検診を行い、結果はご家庭へ知らせた。
- ・ 職員研修会の中で、感染症予防について学んだ。
- ・ 保健だよりを発行し感染症の予防を早めに呼びかけた。

### ② 環境美化委員会

家族の方の協力を得て、6月26日、12月4日に奉仕活動日を計画し、本所と作業棟に分かれ作業室・食堂などの清掃・整理・ワックスがけ等を行い、環境美化に努めた。また、気持ちよく通所できるように、花の世話や草取りなどを利用者さんと一緒に行ってきた。

### ③ 安全委員会

- ・ 会議や朝のミーティングなどで事故防止に関する話し合いを適時行った。
- ・ 毎月1回施設内外の設備点検を行い、不良箇所の修正に努めている。
- ・ 今年度は無事故で終えることができ、事故報告書やヒヤリハット報告書の記録は無かった。
- ・ 職員研修会の中で、「事故をおこさないために、今できること」をテーマにDVD鑑賞やグループディスカッションを行い、交通安全について話し合った。

#### 4 行事・バザー報告

月	行事等	担当	参加者		バザー等	担当	参加者	
			はまべ会	ボラ			利用者	はまべ会
4	野外活動Ⅰ（花見）(2) 家族懇談会(27)		○					
5	お話の会(14) ニューススポーツ体験(18)			○	ヤマハジャンボリー (31)			○
6	大掃除(27) 野外活動Ⅱ（ニューススポーツ）(23)	環境美化委員会	○					
7	お話の会(9) 地域交流会(25)		○	○	地域交流会バザー(25)			○
8	流しそうめん(10)							
9	納涼祭(7) お話の会(10)			○				
10	野外活動Ⅲ（ウォーキング）(5) 活動参観及び懇談会(20) 交通教室(26)		○					
11	ヤマハ労連観劇(6) お話の会(12) 歯科検診(17) 野外活動Ⅳ（ミニ旅行）(27) 総合防災訓練(30)			○	フェスティバル豊田(1) 光る子まつり(21) ふくでふれあいまつり(23)			○
12	サツマイモ掘り(1) 大掃除(4) クリスマス会・送別会(21)	環境美化委員会	○					
1	初詣・新年会(6) お話の会(14)			○				
2	豆まき(3) 個別面談	担当・サビ管	○					
3	個別面談 お話の会・ボランティアさんに感謝する会(10) 野外活動Ⅴ（工場見学）(14) ポップサーカス観覧(28) 送別会(29)	担当・サビ管	○	○				
他	4～11月 ひろ道ウォーク実施 BDショッピング（誕生月実施）							

#### 5 職員研修

年間計画を基に研修担当者で企画の立案と実施を行った。主に、水曜日の午後の時間を研修活動に充て、法人全体研修6回、内部研修会1回の計7回の研修活動を実施した。

障害者権利条約の批准に伴い、虐待防止、意思決定支援、合理的配慮といった利用者さん本位のより質の高い支援が求められるようになった。職員の専門知識の獲得と技術の研鑽はとても大切なことであり、法人内職員合同研修については他施設担当者との連携をとり、臨時開催も含め年7回実施した。各施設の研修担当者による合同会議を定期的に行い、合同研修会のあり方や自己評価等について積極的に検討を重ねた。また、職員会議の中で文献等の読み合せや出張報告を行った。

## <活動内容>

日付	内部研修内容	担当者
6/3	<第1回合同研修会> ① 結・地域療育、地域生活支援事業 グループホーム 事業報告 ② 理事長講話	研修担当 各担当者
9/2	<第2回合同研修会> ① マイナンバー制度について ② 理事長講話	研修担当 事務担当
11/18	<第3回合同研修会> ① 感染症について ② 障害者基本法、権利条約、呼称について ③ 理事長講話	研修担当 保健委員
12/2	<第4回合同研修会> ① 虐待チェックリストの実施 グループワーク / 発表 ② 連絡事項 「グループホーム」から ③ 理事長講話	研修担当 人権擁護・ 虐待防止委員会 GH担当
1/27	<第5回合同研修会> ① 防災について	研修担当 防災担当
2/13	<第6回合同研修会> ① 自己評価・虐待防止チェックリスト ② 理事長講話	研修担当 人権擁護・ 虐待防止委員会
3/30	<内部研修会> ① 交通安全について DVD鑑賞 / グループディスカッション	安全委員会 安全運転管理者

## 6 地域生活支援

地域生活支援事業やライフサポート事業を利用して申し込みのあった、施設利用者さんや地域の方の時間外や休日の支援を法人内他施設と連携して受け入れた。

## 7. 相談業務・福田地区チーム検討会参加

各相談事業所や市町の担当者と連絡をとりながら、利用者さんのご家族や地域の方から相談を受け付けた。内容は、在宅生活を支えるための各支援について、特別支援学校卒業後の進路等について相談があった。

また、福田地区在住のケースについては、各関係機関によるチーム検討会に参加し、引き続き地域生活支援のケース検討を重ねた。

## 8. 中遠地域自立支援協議会(磐田市、袋井市)

知的・身体部会には、「こども部会」「進路・就労部会」「地域生活支援部会」「防災部会」「重心部会」の各専門部会があり、その中の「地域生活支援部会」には、課題別に「グループホーム」「ショートステイ」「相談支援事業から見える在宅支援」「自閉症等在宅支援」の各検討会があり、福浜会からは担当を決め積極的に参加した。「地域生活支援専門部会」のまとめ役「重心部会」「防災部会」「自閉症等在宅支援検討会」の各担当を福浜会が行っている。今年度は3回の知的身体部会に出席した。

## 平成27年度指定特定・障害児相談支援事業所「結」 事業報告

### 1. 平成24年10月より磐田市の認可を受けて実施する。

#### (1) 事業概要

障害者（児）の自立した生活を支え、障害者（児）の抱える課題の解決や適切なサービス利用に向けて、ケアマネジメントによりきめ細かく支援する。

#### (2) 対象者

- ・ 障害福祉サービスまたは地域相談支援を利用するすべての障害者
- ・ 障害福祉サービスを利用するすべての障害児

#### (3) 対象地域・・・磐田市、袋井市、掛川市、浜松市、森町

#### (4) 内容

##### ①計画相談支援

○支給決定時（サービス利用支援・障害児支援利用援助）

- ・ 支給決定又は支給決定の変更前に、サービス等利用計画・障害児支援利用計画（以下、「計画」という。）案を作成
- ・ 支給決定又は変更後、サービス事業者等との連絡調整、計画の作成

○支給決定後（継続サービス利用支援・継続障害児支援利用援助）

- ・ 厚生労働省が示した対象者ごとの標準期間を原則として、各市町で定める期間ごとに、サービス等の利用状況の検証を行い計画の見直しを行う（モニタリング）。
- ・ サービス事業者等の連絡調整、支給決定又は支給決定の変更に係る申請の勧奨。

##### ②基本相談支援

- ・ 障害者や障害児からの相談に応じ、必要な情報の提供及び助言等の他、必要な便宜を供与する支援

### 2. 平成27年度を振り返って

- ① 厚生労働省は平成24年から3年の間に、サービスを利用するすべての人を対象として計画相談を実施する方針を打ち出し、平成27年度からは原則として障害福祉サービスの支給決定にあたって、全員にサービス等利用計画の提出が求められることとなった。磐田市を中心とした近隣の市町でも、この方針を受けてほぼ100%のサービス利用者に計画相談が実施される状況となっている。

したがって全員に計画相談が付いた後に相談支援に求められるものは、標準6ヶ月毎のモニタリングを通して、利用者の状況を把握し、課題解決の度合いや新たな課題を探り、今後の方針を確認していくことであり、平成27年度の活動内容を振り返ってみると、いわゆる「モニタリングの時代」に突入したという実感があった。

- ② その意味でも市の委託を受けている一般相談の事業所や就労・生活支援センター、または地域包括支援センターや介護保険のケアマネジャー等と連携しながら対応することは、重要な事柄となっている。中でも65歳以上となる利用者には介護保険の認定が求められ、結でも要支援1以上と判定され、計画をケアマネに移したケースが3件出ている。今後も高齢者を取り巻く相談窓口としての、地域包括支援センターとの連携は増々欠かせない状況となっている。

- ③ 児童の場合は「あにまあと」の放課後等デイサービスを利用している方の計画が中心で、今年度新規の2名を含めて、大半が重症心身障害児の計画相談となっている。

- ④ 中遠自立支援協議会の中に相談支援専門員連絡会があり、平成27年度は磐田市と袋井市合わせて13カ所の相談支援事業所が参加し、年間5回の連絡会を開催している。昨年度に引き続き各事業所の抱える課題の検討や、行政との計画に関するすり合わせ作業などが行われた。

### 平成27年度の計画作成数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
計画作成	4	8	6	20	13	18	4	7	5	4	12	22	123
(児童)	2	0	0	1	0	0	0	1	0	3	0	5	12
合計	6	8	6	21	13	18	4	8	5	7	12	27	135
モニタリング	6	7	12	15	21	38	6	10	10	28	22	38	213
(児童)	1	1	0	3	0	4	1	0	1	1	1	0	13
合計	7	8	12	18	21	42	7	10	11	29	23	38	226

### 平成27年度地域療育支援センター 事業報告

#### 1. 平成27年度の状況

登録者数 13人

在宅支援訪問療育等指導事業 実人員 9人 延べ回数 17回  
 在宅支援外来療育等指導事業 実人員 7人 延べ回数 7回  
 施設支援一般指導事業 0回

#### 2. 内容については

- ・福祉サービスの利用援助・情報提供
- ・日常生活(医療的ケアを含む)に関する支援
- ・就学に関する相談支援・情報提供
- ・就学後の在宅支援 など

平成27年度は前年度の活動状況を受け、特に重症心身障害者(児)を対象とした動きが中心となった。中でも「あにまあと」が展開している重心児童を対象とした児童発達支援事業や放課後児童デイサービス等の関係から、見学を希望されるケースやサービス内容について相談を求められるケースが多くなっている。

## 平成27年度 地域生活支援事業活動報告書

静岡県及び各市町が定めた「地域生活支援事業」及び「障害児者ライフサポート事業」実施要綱等に基づき、各市町の委託を受けて地域生活支援事業・ライフサポート事業・福祉有償運送を実施。利用者さん等からの依頼を受け、必要に応じた地域生活支援サービスを提供することにより、障がいのある人やその家族が地域で安心して生活できるための支援を行った。

今年度実施したサービス内容等は次のとおり。

### 1. 提供サービス内容（各市町との委託契約を受けて）

地域生活支援事業（提供市町村：磐田市、袋井市、掛川市及び森町）

日中一時支援事業

移動支援事業（袋井市：外出介護事業）

ライフサポート事業（提供市町村：磐田市、袋井市及び森町）

ヘルパー派遣（自宅等での支援、外出支援、送迎サービス）、デイサービス

福祉有償運送(提供市町村：磐田市、袋井市及び掛川市)

### 2. サービス提供時間

原則として6：00～22：00で対応し、支援を実施した。早朝や夜間時間帯の支援依頼はほとんどなかった。依頼の内容は、そのほとんどが8：00～19：00の時間内に集中していた。

### 3. 利用状況

施設利用者さんや特別支援学校の生徒さんからの依頼が中心だった。新規の依頼も、増加傾向にあり、施設見学や面談をその都度実施して、要望をお聞きした。契約するにあたっては受け入れ体制の整備をしてから対応している。そのために新規登録ヘルパーの採用や、法人内施設の職員体制についての相談をして対応した。

移動支援に関しては、その目的に沿い、余暇活動の充実のための支援を行なった。健康維持のための散歩の依頼や、公共交通機関を利用しての外出の依頼があった。

施設利用者さんの早朝時間帯の利用や、日中活動終了後の延長利用、または施設閉所日における日中一時支援や移動支援の利用希望があり、それぞれの施設における職員の受け入れ体制を整えながら、できる範囲で対応している。

特別支援学校の長期休暇時には、毎年のように依頼が増加傾向にある。

掛川市の方から、相談支援事業所を通して、送迎に伴うサービス提供が可能かといった相談はあったが、市との契約などもしていなかったため、支援には至らなかった。東遠地区からの依頼も数件あったが、地域の相談支援事業所と情報交換をしながら、地域での受け入れを基本にしながらも必要に応じて受け入れる方向で検討していく姿勢でいる。

### 4. その他

土、日、祝祭日などの施設閉所日の支援に関しては、登録ヘルパーに支援依頼をしていることが多いため、利用者さんが楽しく過ごすことができるように、個々の判断に委ねるのではなく、登録ヘルパー同士がお互いに相談しながら支援にあたるよう促した。

大きな事故や利用者さんに怪我などはなかった。支援の内容などについて、問い合わせが数件あり、その都度ご家族へ説明をしてきた。

利用者さんの荷物の紛失に関する問い合わせが何件もあり、後日忘れ物が見つかったケースもあった。支援が終了する際には忘れ物がないように確認するよう意識付けをした。

## 別表

## H27 地域生活支援事業 月別実績件数

## 磐田市

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	H26
ライフサポート	71	76	80	72	40	75	83	97	69	78	84	79	904	989
日中一時	195	177	174	198	198	253	213	179	174	162	204	202	2329	2691
移動支援	4	6	4	6	5	5	5	6	5	5	7	6	64	56
合計	270	259	258	276	243	333	301	282	248	245	295	287	3297	3736

## 袋井市

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	H26
ライフサポート	21	15	27	33	20	28	32	30	26	26	27	23	308	454
日中一時	80	62	81	83	113	86	79	72	74	73	74	73	950	930
外出介護	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
合計	101	77	108	116	133	114	111	102	100	99	101	96	1258	1385

## 森町

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	H26
日中一時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
外出	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

## 掛川市

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	H26
日中一時	14	12	13	17	15	14	14	12	13	16	8	10	158	124
合計	14	12	13	17	15	14	14	12	13	16	8	10	158	124

## 平成27年度 共同生活介護事業「汐風」活動報告

### ～ 実地指導を通して ～

前年度に各ホームで感染症とみられる症状の拡大がみられたこともあり、昨年度に引き続き12月3日に実地指導が行われた。事態が発生してから収束するまでの経緯についての確認や、当時の各機関（保健所や県）への報告が適切になされたか、ご家族や入居者さんへの説明やその後の処置についての事業所の取り組みが適切かつ十分であったかなどの確認と指導がなされた。処遇の内容や人員配置上のこと、書類が適切に残されているかなどについては、何点かの確認と今後について改善を求められることもあったが、違反事項としての指摘はなされなかった。改善すべき点として、日中支援加算の算定については、個別援助計画に記載する旨の指摘があった。

### 1. 入居者さん及び各グループホームの状況

#### 【汐 風】

それぞれの入居者さんの身体的状況を考慮し、どのような支援が必要になるのかをご家族の要望もふまえて考えた時に、体調観察や通院の支援、服薬の適切な管理など項目として整理した。そのうえで、必要と思われる方については業務日誌に記入しながらと併行して体調観察を日々行なうようにし、血圧や体温計のバイタルチェックや摂食量も把握していった。

#### 【あしたば】

クリスマス会や外出など、その時期に合わせ入居者さんと世話人とが共同で外出や料理作りの企画を起案し、実施した。また日中、ホーム内で過ごしている全身性障がいのある入居者さんも、地域生活支援事業を利用して通院や買い物、散髪などに出掛けている。

あしたば会（入居者さんのご家族で構成されている会）からのご要望もあり、入居者さんが安心して生活できる実現に向けて世話人さんに関しての提言をいただき、考えさせられる機会となった。一定期間、ホームに通えなかった入居者さんの不安な気持ちを早期に解決しえなかったことを反省している。

3月下旬に入居者さんがインフルエンザB型に感染することがあり、他の入居者さんのご家族に感染が拡大しないように1週間程度ホームを閉所扱いとしてお願いをさせていただいた。

#### 【日 和】

入居者さん同士の部屋が分かれている為、一軒家のように顔を合わせる機会が少ないなか、食事の際にはダイニングテーブルで話をする機会も増えた。引き続き入居者さん同士が良好な関係でいられるように世話人が言葉がけ、促し等して配慮をしている。

水曜日の午後の時間を利用して、日頃行えない掃除を実施するなど業務内容の見直しを図って、定着している。

自動車免許を取得し車を購入した入居者さんと、今年度4月以降の一人暮らしの実現についても相談してきたが、労働所得が安定しないことでなかなか前に進んでいかない現状。

## 【みぎわ】

365日開所のホーム。身寄りがない方もいるため、時期に合わせて楽しめる行事を行ってきた。正月にはおせち料理を食べたり、近くファミリーレストランで外食したり、公共交通機関の遠州鉄道のバスに乗ってアピタ今之浦店へ外出した。

休日に育成会や地域行事の一環で外出を楽しみにしている方もいて、その外出に必要な支援（参加の用紙への記入、タクシーの手配やバス時刻表の確認と持ち物の確認など）をした。地域へ出かけ、充実した余暇を過ごしたと思われる。

抱える持病のために定期通院が必要な方に関しては、自分で行く場合と、必要に応じて職員がお付添いし、服薬の処方と保管については本人と相談して取決めて管理をした。

3月下旬に入居者さんがインフルエンザB型に感染することがあり、入居者さんに感染が拡大しないように消毒やマスク着用、状況によってはご家庭の協力を得て帰宅するなどの対応を取り、予防に努めた。

## 2. 世話人体制

夕風、日和、みぎわは基本的には1日通して世話人一人体制で勤務し、あしたばは全身性障がいの方がいるため、時間帯によっては2人体制で勤務した。

従来の宿直体制から夜勤体制へ変更をした。夜勤の勤務内容としては、就寝への促し、夜間の見回り、入居者さんの安全確認、夜間における緊急時の対応である。日和の夜勤は週2回夜勤者を配置した。日和以外のグループホームの夜間体制は、毎日1名の夜勤者を配置した。世話人だけで全てのホームの夜勤体制を敷くには現在の世話人の人数では難しさがあり、法人内施設職員による夜勤等のフォローが必要であった。

また、週末、ホームに入居者さんが留まる事があり、状況に応じて、世話人の勤務体制を整えるなどの対応をした。

世話人の事情等により、年間を通してあしたばの勤務体制がめまぐるしく変わり、その都度勤務シフトを組み直さざるを得ない状況があった。このことから世話人の確保の問題が当法人でも浮き彫りになったと感じている。内部包括型の運営をしていくために、世話人の絶対数の確保は重要課題である。

## 3. 健康管理

毎朝のバイタルチェックとして検温を行い、健康管理に留意した。

高血圧が気になる方には、定期的な通院の支援と毎日の血圧チェックをした。食事に関しては、肥満等の予防も兼ね、栄養バランスなど考えた世話人の手作り料理を提供している。服薬については、ホーム毎にその方法を決めて取り組んだ。

体調不良など、普段と違う様子が見られた際には、日中活動の施設の職員とその都度相談し、ご家族と相談して、その後の対応をした。

就寝前後、起床前後のエアコンのスイッチON⇔OFFや温度調節などを行った。

また、時間を見つけ、入居者さんと散歩に出かけ、体力維持、運動不足解消を図る機会とした。

## 4. 活動起案書による余暇活動

入居者さんより、外出や交流会の希望が出て、世話人と相談し、それぞれのグループホームで計画を立てて実施し、余暇活動の充実を図った。

## 5. 購入物品について

ホームの生活に必要なと思われるものについては、世話人さんより意見を伺い、その必要性について精査し、妥当と思われる物を購入した。入居者さんの部屋に欲しいものなど、個人的に購入したい物についてはご本人やご家族と相談して購入した。

## 6. その他

定期的にホーム毎の会議を実施し、勤務シフトの確認と入居者さんの直近の様子申し送りや、業務の流れの確認などを行った。通常と異なる状況や様子が見られている入居者さんについて、その前後の状況や出来事の情報の共有のため、ノート等による申し送りや必要に応じて勤務前に連絡を入れて報告をするなどして対応した。また、職員がバックアップに入った際には、世話人との情報交換なども行った。

世話人に対しては、会議の折に法人の理念や目的にそって基本的な関わり方、業務の流れの理解を大事にしながら、それぞれの世話人が同じ方向を向いて支援にあたってもらえるように話に触れた。

定期的に法人で行なわれる職員向けの内部研修への出席を世話人へ要請し、研修を重ねてきた。外部研修への参加としては、中遠地域自立支援協議会のGH検討会への参加や静岡県知的障害者福祉協会の地域支援部会における研修会への出張などがあげられる。

防災対策については、必要と思われる物品をそれぞれのホームへ購入し、非常食についても整備をし、飲食料を世話人分含めて3日分を用意してある。また、MCA無線機、トランシーバーも配備している。普段からの予防意識に加え、これらの有効的な手段を活用できるよう意識付けたい。